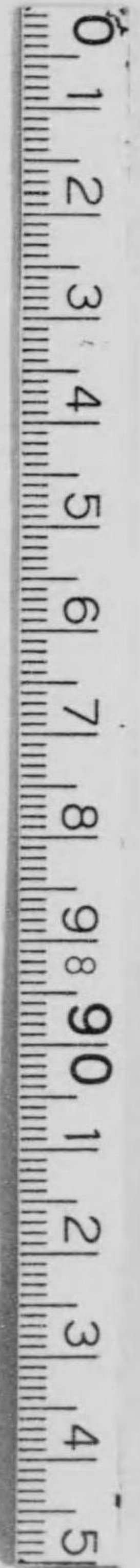


始





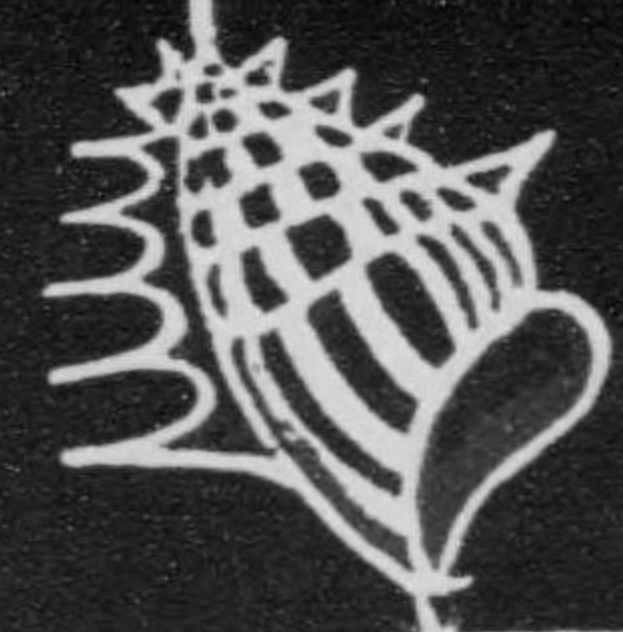
408  
83





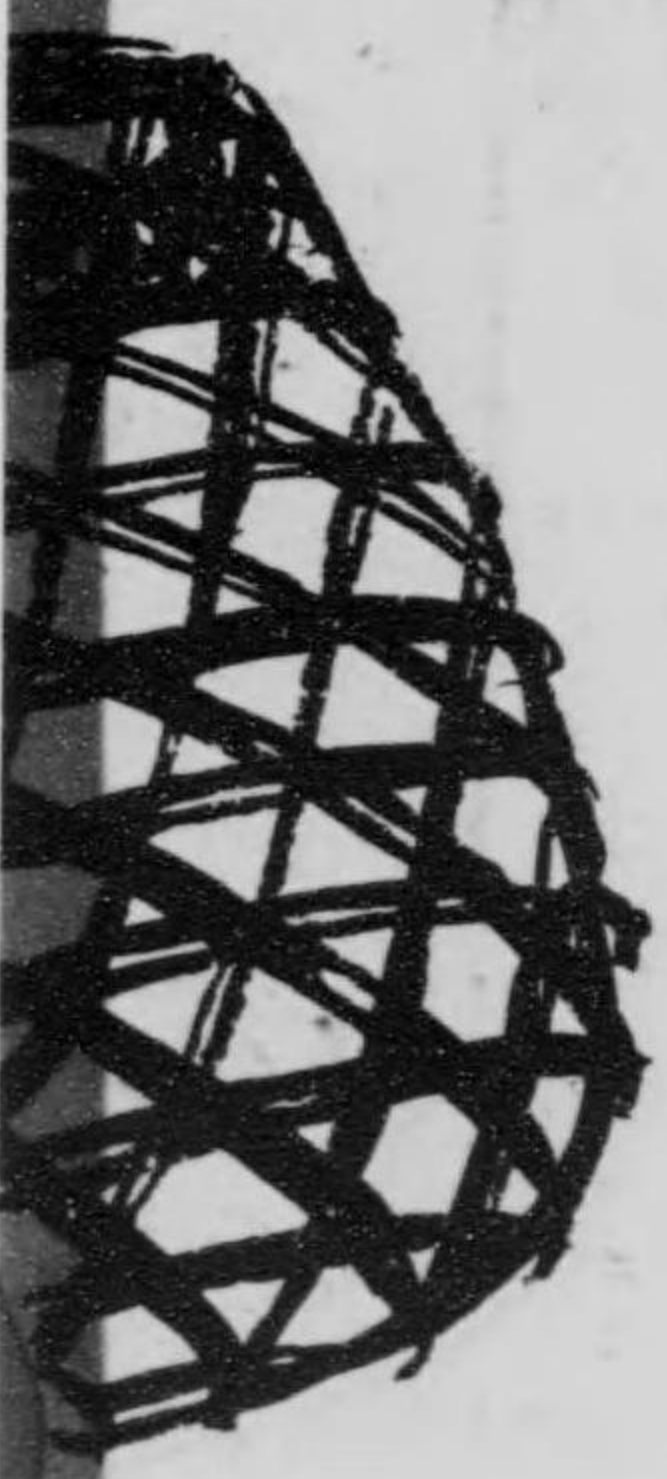
408  
83

日本貝類寫真帖





58-83



Handwritten text in a cursive script, possibly Arabic or Persian, filling the central area of the page. The text is arranged in several lines and is mostly illegible due to fading and the quality of the scan. There are faint rectangular outlines around the text, suggesting a structured layout.







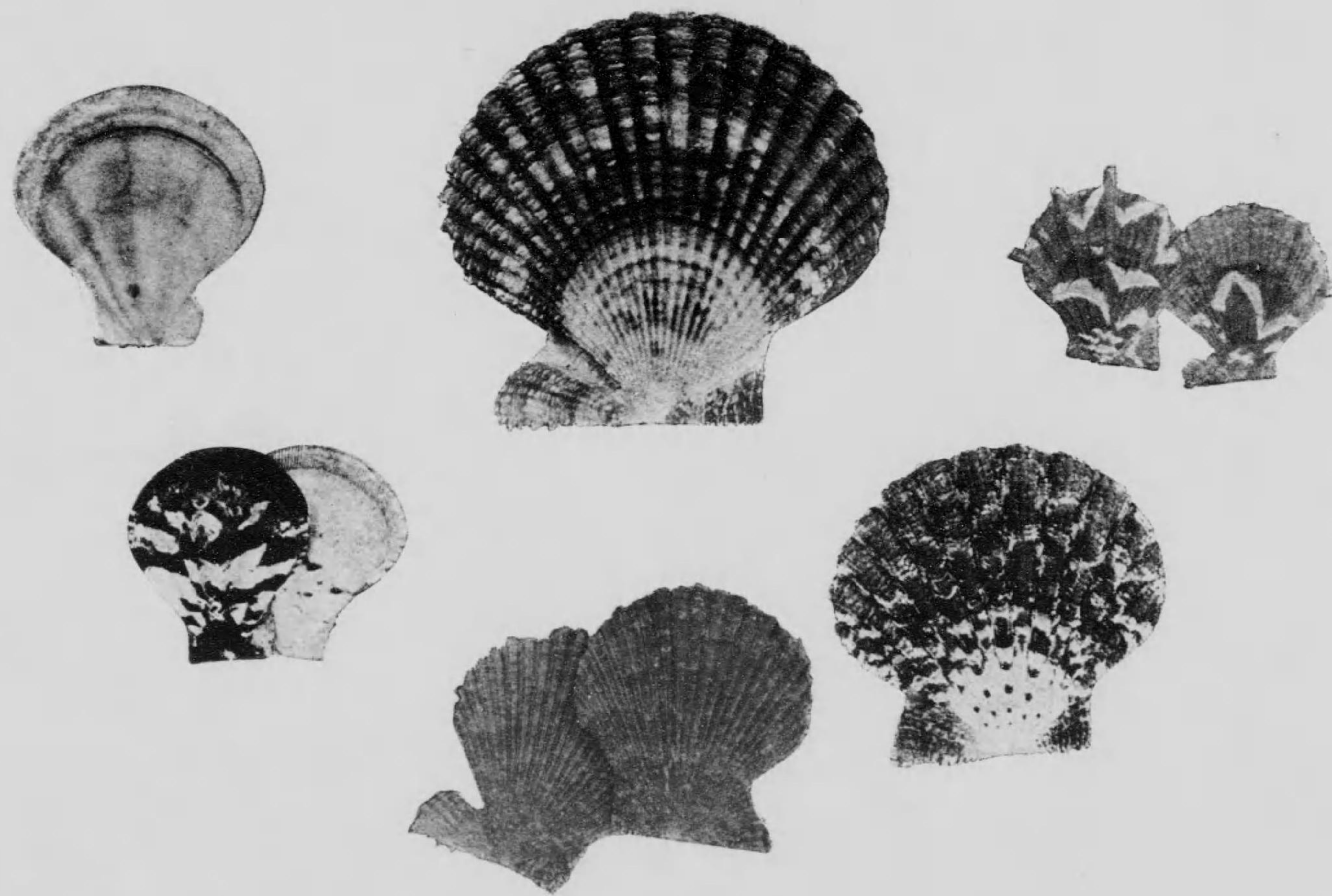




日本貝類寫真帖







観 美 彩 色 の 貝



## 序

近時科學の進歩に伴ひ動物に關する圖譜の出版せらるゝもの漸く多く、松村氏の千蟲圖解の如き、田中氏の魚類圖譜の如きは其魁なり。予も亦不肖を顧みず本邦産貝類圖譜の出版を企つること茲に年あり、既成の原稿圖版亦尠からざるも貝類博物館建設の事務に妨げられ、未だ之を公にするに至らず、偶ま矢倉甫田君、日本貝類寫眞帖一編を著し、序を予に求めらる。予之を一閱するに圖版精巧、彩色亦鮮明にして圖の及ばざる所は説明を附して之を補はれたれば斯學の缺陷を補ふの效決して尠からざるべし。君は夙に舞子介類館を建て、貝類趣味の普及に盡力せらるゝ處あり。君が本書の出版は蓋し斯學貢獻の第一歩なるべく、前途の發展必ず見るべきものあらん。予や貝殻の間に籠居すること二十餘年、曩きに介類雜誌等を發行して具さに貝書發刊の困難を経験したれば、予が矢倉君に對するの同情も從て深く、其成功を祈ることも亦切ならざるを得ず。聊か所感を陳して序文に代ふ

大正二年七月

平瀬與一郎識



## 緒言

我島帝國の版圖たる北千島樺太の寒帶地より南  
沖繩臺灣小笠原の如き熱帶及び亞熱帶地方に亘  
る千數百里の間蜿蜒長蛇の如く海岸線の延長實  
に七千數百里を算す而して近海外洋より漁獲採  
收せらるゝ魚介藻類の饒多なるご分布の變化に  
富めるごは蓋し世界に冠絶せりご謂ふべし然り  
而して是等に對する學術的研究及び利用の途も  
漸次範圍を擴大され窮極する所無きに似たり然  
りご雖も獨り貝類學に至りては專攻する人頗る  
尠少に而も未だ一般に幼稚の域を脱する事能は  
ず是れ何に依つて然るか惟ふに貝類標本陳列場  
及び貝類參考圖書の稀なるに職由せずんばあら  
ず。

余輩曩に貝類陳列場を公開せしも貝類初學者の  
便益に供し一は一般人士に興味ご實益ごを感得  
せしめんごする微意なるのみ今又貝類寫眞帖を  
上梓して同好者に頒布し聊か斯學の普及を謀ら  
んごす素より淺學菲才加ふるに薄資の爲僅少の  
部數を刊行せしのみにて汎く同好の士に頒つご  
ご能はざるは寔に恨事ごする所なり若し夫れ他  
日再版の期を得ば多數を刊行して其責任を盡さ  
んごす乞ふ之を諒させられんごを

舞子介類館標本室にて

大正二年七月

矢倉甫田識



凡例

- 一 本書は日本陸産淡水産海産貝類中主要なるもの百種を選び分類法により成べく通俗平易にして明快なる説明を附せんここに力を致した
- り
- 一 卷末に貝類利用竝に應用に關する諸器物を集め参考に資せり
- 一 本書の圖版は盡く整色乾板を用ひ石版色刷は原標本と相違なきことを期せり
- 又 本書收むる所の三色版に就ては之を我邦に於て貝類實物を撮影製版に試みられたることも無く今回を以て嚆矢となすが故に多大の苦心を要したるも未だ以て完全と認められざるは遺憾とする所なり
- 一 本書は昨春出版を企圖し執筆せしも故ありて一時中止せしを以て分類竝に學名に異動を生ぜしものあらんも既に一部印刷終了し居たるを以て他日再版の時に修正せんと欲す
- 一 本書の刊行に當り平瀨與一郎氏は特に序言を與へられ平瀨貝類博物館助手黒田德米氏は校正其他に故岡本月村畫伯は裝釘竝に編纂上何れも多大の援助を與へられたる厚情を鳴謝す
- 一 尙又本書素より杜撰なる箇所あるを免れざれば幸に識者の示教により版を重ねて面目を新にするを得ば著者の幸甚之に過ぎたるはあらず

正誤表

番圖	行數	誤	正	備考
二	一一	以	内	以
〇	〇	〇	〇	〇
南				



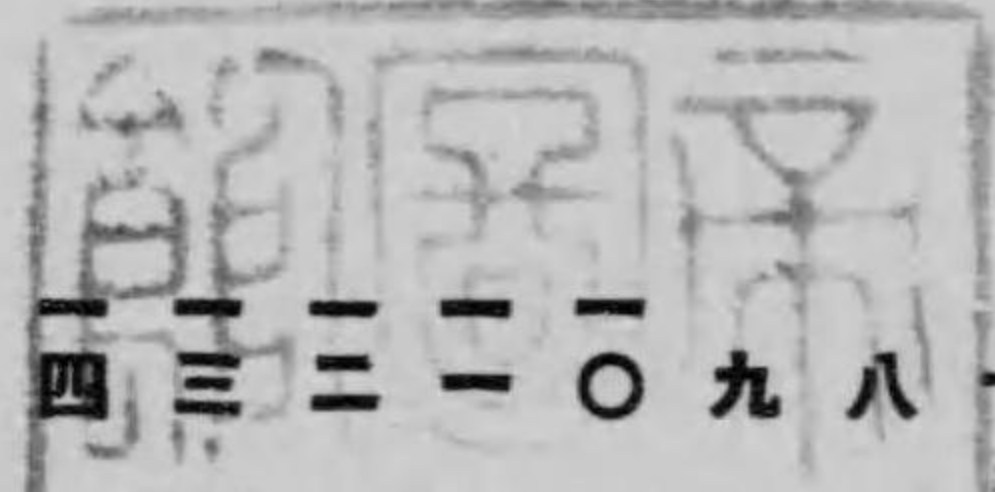




一 尙又  
れも  
ば 幸  
に す  
じ

圖版目次

一	貝の色彩美観	三色版
二	あふひがひ	コロタイプ
三	あふむがひ(切断面)	同
四	おほりうきうたけ	同
五	くろふもどき	同
六	たがやさんみなし	同
七	こもんいも、さらさみなし、ながいもがひ	同
八	いどくるま、ころもがひ、じゆどうまくら	同
九	いどまきひたちをび	同
一〇	てうせんふで、にしきのきば	同
一一	ふどころやたて、おほみのむし、いもふでがひ	同
一二	ながにしと卵囊	同
一三	てんぐにしと卵囊	同
一四	おにこぶし、しらいとまき	同
一五	みづすい、てんによのかむり	ききやうにし
一六	あくきがひ	同
一七	てんぐがひ	同
一八	あかにしと卵囊	同
一九	むらさきいがれいし、しらくもがひ	同
二〇	ふちつがひ	同
二一	ほらがひ	同
二二	みやこぼら、まつかはがひ	同
二三	たうかんむり	同
二四	うづらがひ	同
二五	ほしたから	同
二六	じやめのたから	同





二七 すそむらさきたから、ひめほしたから、こもんがひ・コロタイプ  
 二八 うみうさぎ・・・・・・・・・・同  
 二九 しごろ、まがきがひ・・・・・・・・同  
 三〇 すいじがひと其幼貝・・・・・・・・同  
 三一 おほへびがひ、みゝすがひ・・・・・・・・同  
 三二 きりがひだまし、おにのつのがひ・・・・・・・・同  
 三三 みさきくるま・・・・・・・・・・同  
 三四 くまさかがひ・・・・・・・・・・同  
 三五 つめたがひ・・・・・・・・・・同  
 三六 あさがほがひ、こしたかあまがひ・・・・・・・・同  
 三七 おほいとかけ、ながいとかけ・・・・・・・・同  
 三八 りうてん・・・・・・・・・・同  
 三九 りんぼうがひ・・・・・・・・・・同  
 四〇 さらさばてい・・・・・・・・・・同  
 四一 おきなゑびす(長者貝)・・・・・・・・石版色刷  
 四二 みゝがひ、まあなごう・・・・・・・・コロタイプ  
 四三 うのあし、あみがさがひ・・・・・・・・同  
 四四 ひざらがひ、にしきひざらがひ、まるつのがひ・・・・・・・・同  
 四五 つゝがき・・・・・・・・・・同  
 四六 かもめがひ、とげすがひ、にほがひもどき・・・・・・・・同  
 四七 しやこ・・・・・・・・・・同  
 四八 ざるがひ、りうきうあふひ・・・・・・・・同  
 四九 わすれがひ、さつまあさり・・・・・・・・同  
 五〇 おほすだれ・・・・・・・・・・同  
 五一 みるくひ・・・・・・・・・・同  
 五二 さめざら、つきがひ・・・・・・・・同  
 五三 うみきく・・・・・・・・・・石版色刷  
 五四 しやうじやうがひ・・・・・・・・コロタイプ  
 五五 ほたてがひ・・・・・・・・・・同

五六 ゑぞぎんちやく、りうきうあふび・・・・・・・・同  
 五七 ゑぞがき・・・・・・・・・・同  
 五八 しゆみせん(しゆもくがき)・・・・・・・・同  
 五九 たひらぎ・・・・・・・・・・同



五二 さめざら、つきがひ……………同  
 五三 うみきく……………石版色刷  
 五四 しゃうじやうがひ……………コロタイプ  
 五五 ほたてがひ……………同

五六 ゑぞきんちやく、りうきうあふぎ……………同  
 五七 ゑぞがき……………同  
 五八 しゆみせん(しゆもくがき)……………同  
 五九 たひらぎ……………同  
 六〇 ゑぞいがひ……………同  
 六一 はひがひ……………同  
 六二 まごがひ……………同  
 六三 ひだりまきまい、かたつむり……………同  
 六四 ふとさせるもごぎ、おほきせる……………同  
 六五 おほしじゆみ……………同  
 六六 かはしんじゆ、さゝのは……………同  
 六七 うぐひすがひ、ふくらすゞめ……………同

以下参考品

六八 眞珠……………コロタイプ  
 六九 支那養殖眞珠……………同  
 七〇 日本養殖眞珠……………同  
 七一 貝の利用(其一)螺鈿と芝山象嵌……………同  
 七二 同(其二)貝おほひ……………同  
 七三 同(其三)和洋の器物……………同  
 七四 同(其四)貝釦、摺貝……………同  
 七五 同(其五)伊太利式貝彫刻……………三色版  
 七六 貝の應用(其一)古繪畫と舊紙幣……………コロタイプ  
 七七 同(其二)陶器及織物圖案……………石版色刷  
 七八 貝貨……………コロタイプ  
 八九 南洋土人頸飾……………同  
 八〇 貝の化石……………同



たこぶね

たこぶねの名は、古く希臘羅馬人の間に知られ、詩歌昔噺などにも傳へ、當時の航海者は、蛸船の群集する處、必ず航路平穩であるとし、蛸船は實に海の安全を守る神である、と信ぜられて居たのである。

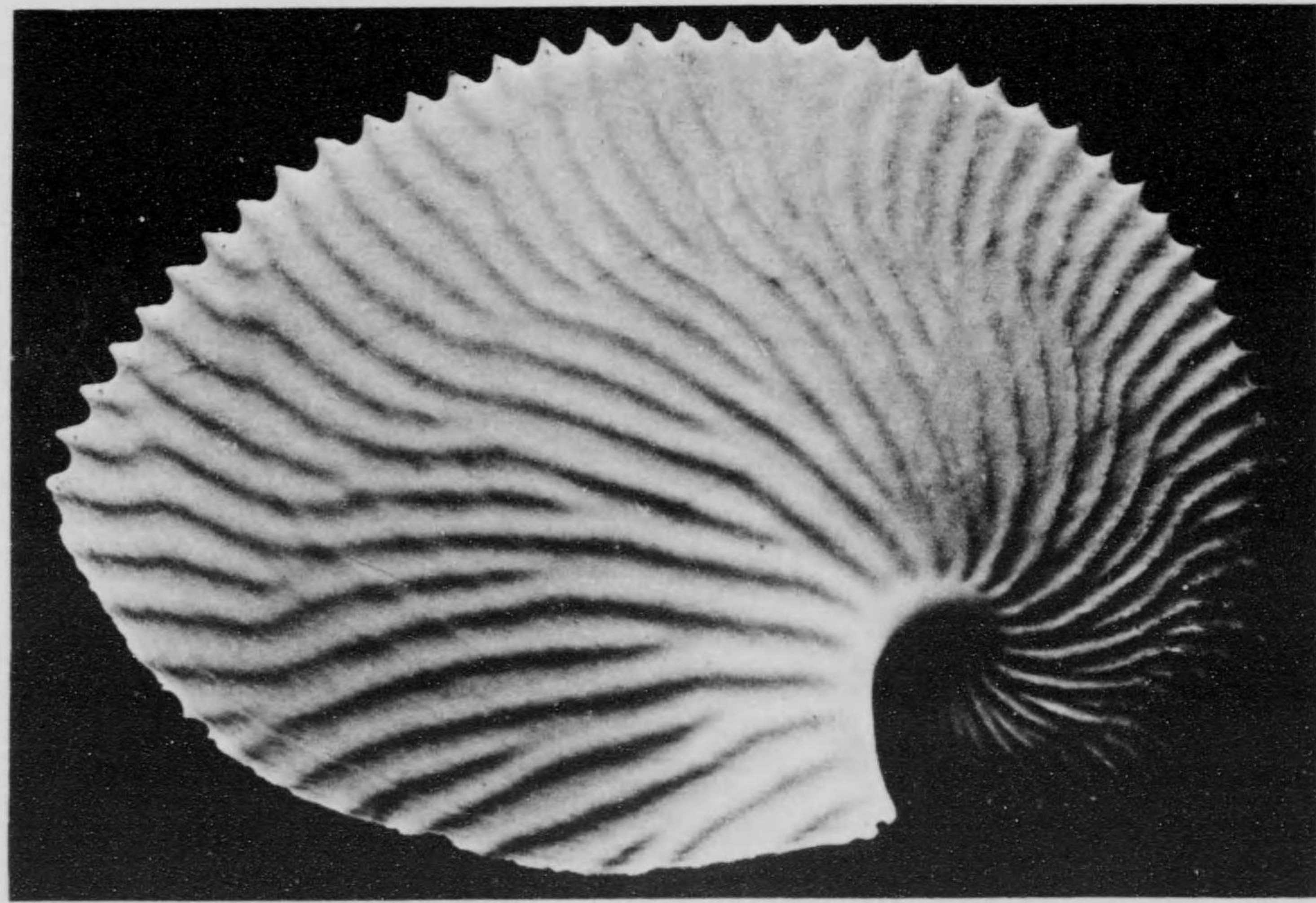
たこぶねは蛸類の一種で、雌はセルロイドの様な鳥兜に似た形で、浪波状の隆起ある貝殻を持ち、體は蛸と同じで、二本の足端に水掻の様に膜を張つて居る、此二本の足を帆の如くにして、他の足で舵を取り、海を遊び廻るのであるとは、一般に信ぜられて居るが、夫れは間違であつて、此足の膜は唯貝殻を抱き保護するの用をなすのみで、蛸と同じく水管より水を噴出する力で、體を後方に移動するのである、雄には貝殻が無い、而して著しく小形で、一本の足は大層長く、交接の用をなす、日本にはたこぶね(薄黒き貝殻で隆起荒く貝の幅廣く小形)あふひがひ(隆起密で幅狭く白色で大形)の二種を産す、

▲圖は移動する時の姿勢で右方へ進むのである、



蛸ノれぶね





*Argonauta argo*. Linn.  $\frac{2}{3}$

(八目) ヒガヒフア

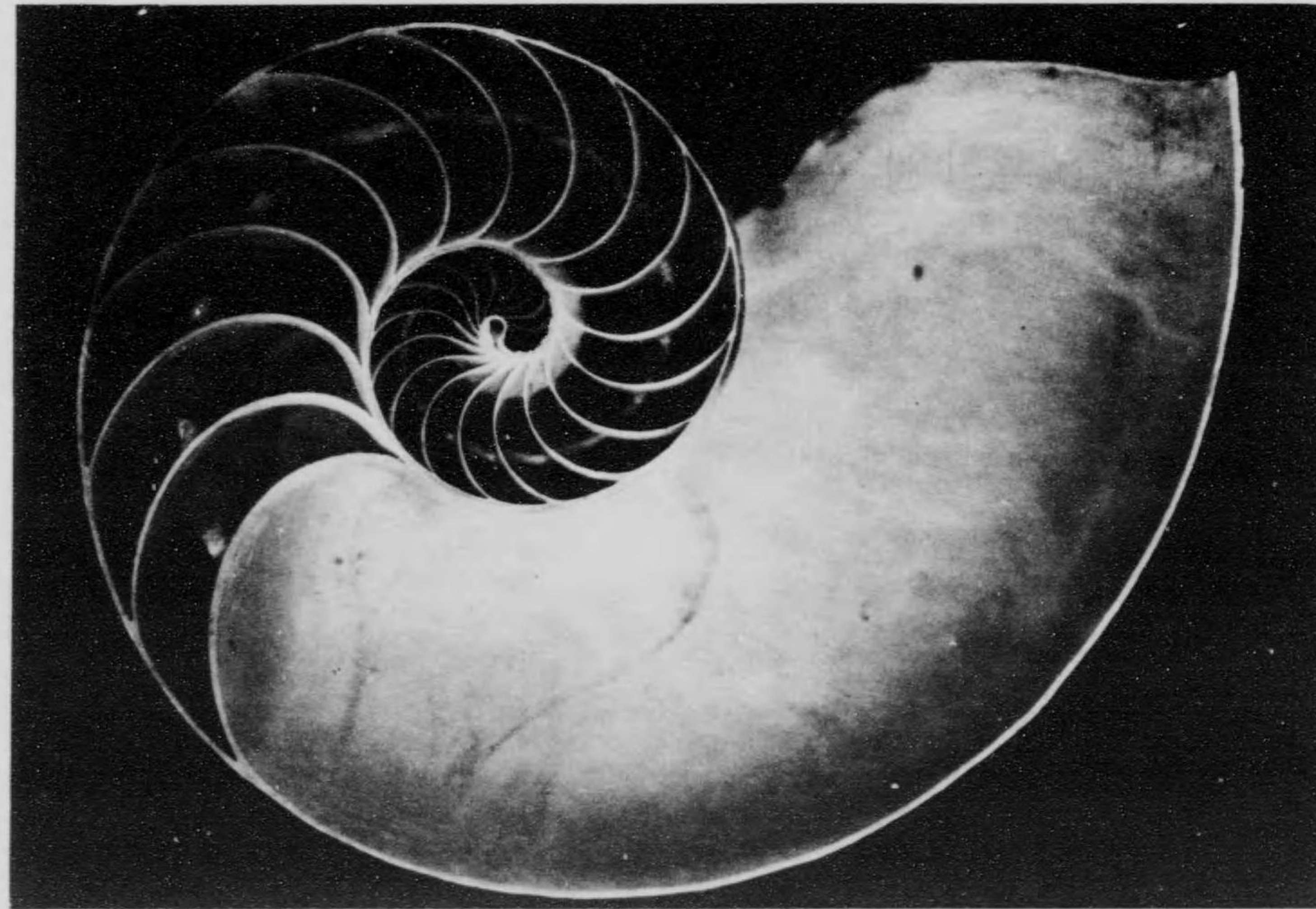


あふむがひ 鸚鵡貝

四總類に屬し、前世界には多種類棲息して居つたが、大抵死絶して、僅かに四種を存するのみである。

あふむがひは扁圓内旋の貝で、蛸船に能く似て居る、白色に茶褐色の爛狀斑紋あり、内旋の殻口に近き處は黒色で、鸚鵡の口嘴の様である、殻口内は美麗なる眞珠層で、貝殻の内部は三十餘の隔壁で空室を造り、中央に膠質の管が通つて居る、最後の大房(即ち殻口部)には、動物の體を納む、多數の觸手があるが、吸盤は無い、琉球以内に産す、昔専ら螺鈿に嵌入し、盃を作つたので有名である。





斷切ノ貝鵝鸚

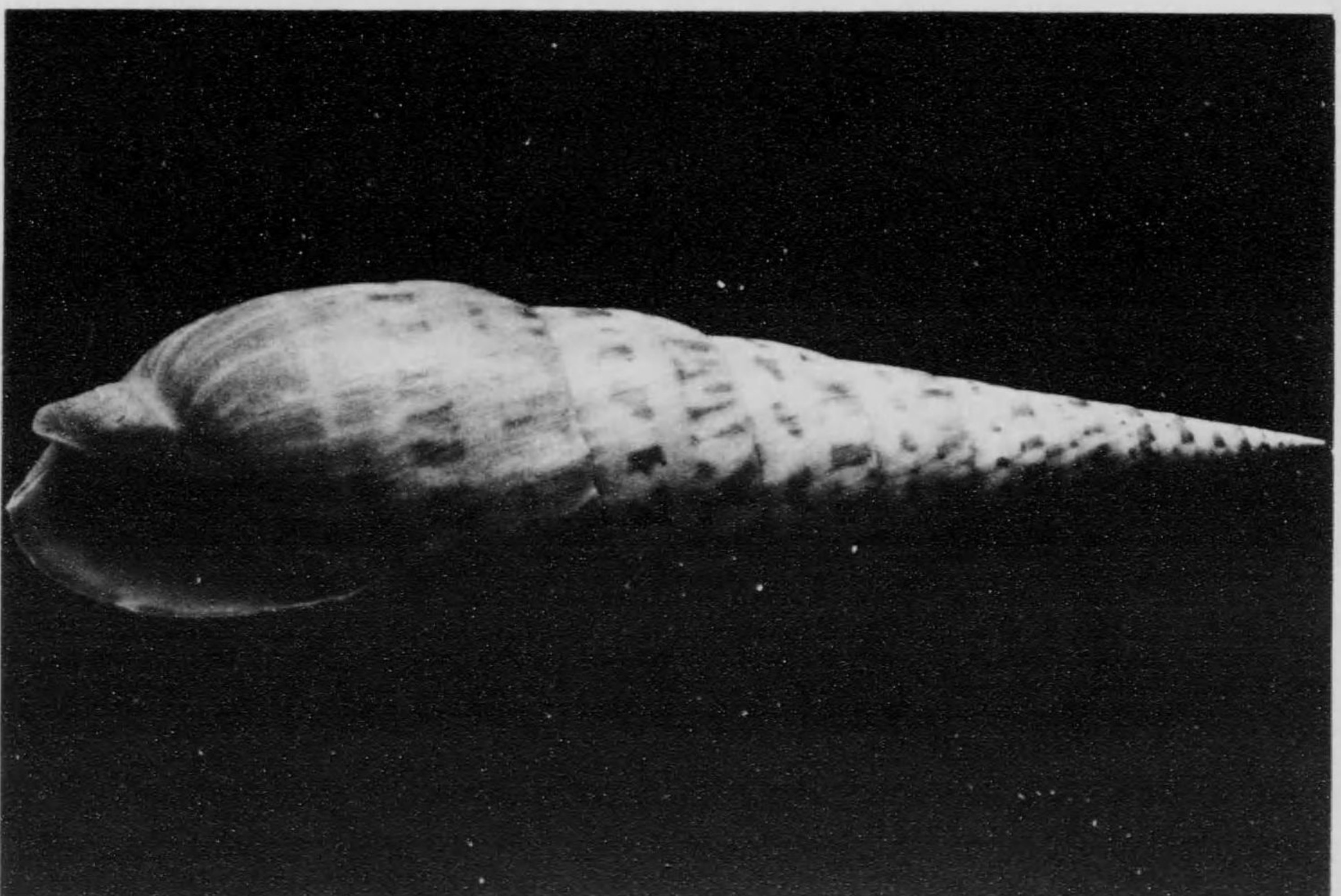
0113



たけのこがひ

鋭き圓錐形で、螺旋し大小五十餘種ある、おほりうきうたけは此種屬中の最大なるもので、長さ四五寸貝殻厚く、薄墨の斑紋があつて、筍に能く似て居る、琉球諸島以南に産す、





*Terebra maculata*, Linn.  $\overline{1}^{\circ}$  (瀬平) ケヌウキウリホオ



いもがひ

芋貝又みなしがひと云ふ、里芋の様な形で、貝殻厚く、殻口狭く、細長き扉を持つて居る、動物は觸角、吻及長き水管を出して匍匐する、此吻には鋭き齒舌あり、毒汁を分泌して、敵を刺戟して肉を喰ふ、偶々人に噛付く事ありと云ふ、恐ろしき奴であるが、形の面白きと、斑紋の美しいのが、多から賞翫されて居る、

くろふもじき 内山

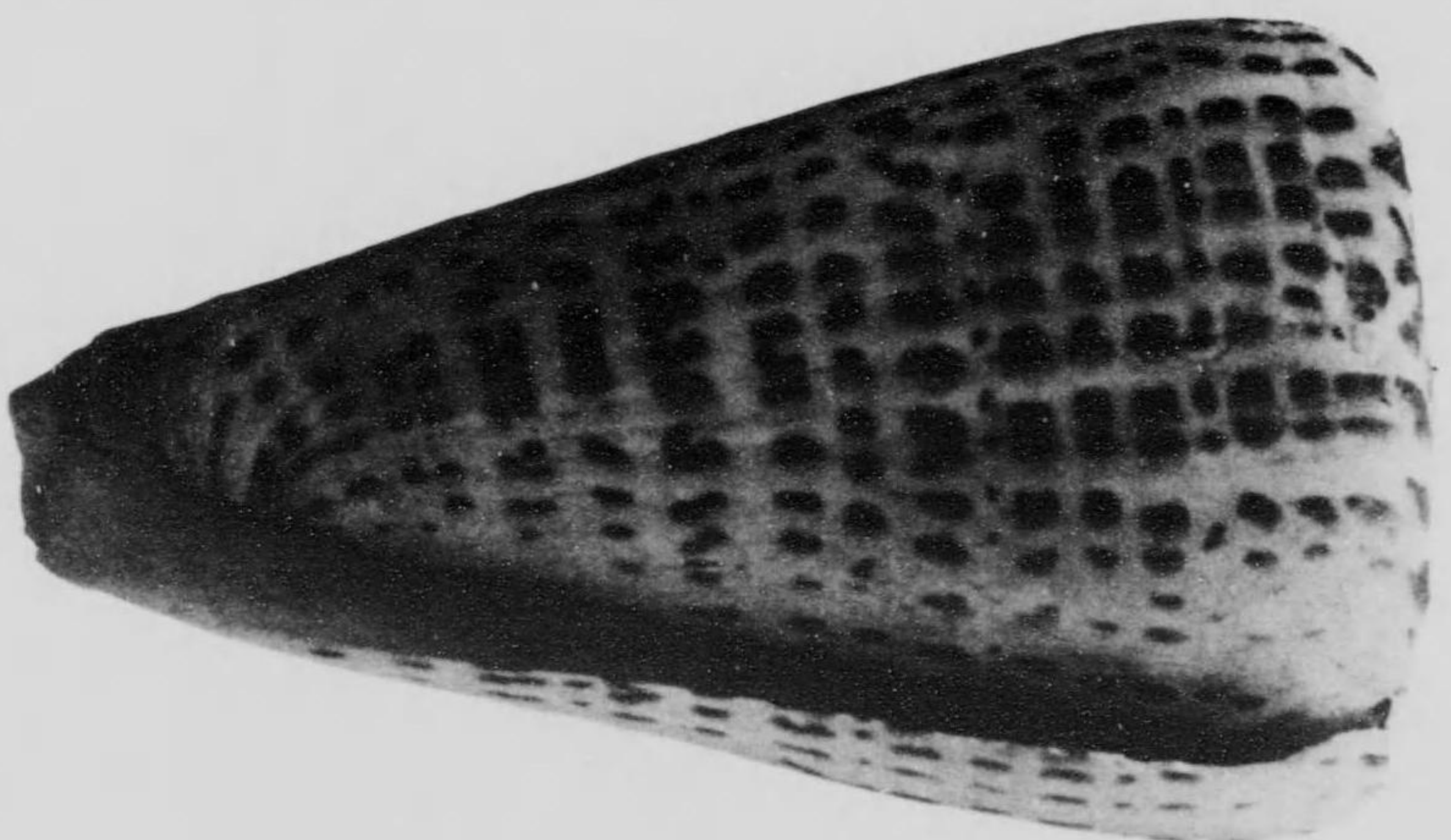
長さ三寸内外、芋貝中の大きなもので、白地に黒の斑點を密布し、茶色の薄皮を被つて居るが、磨けば美しくなる、貝殻厚く石の様である、琉球以南に産す、

かみ島の磯間の浦による貝の

身はいたづらに成果ゆらん

高臺院入道





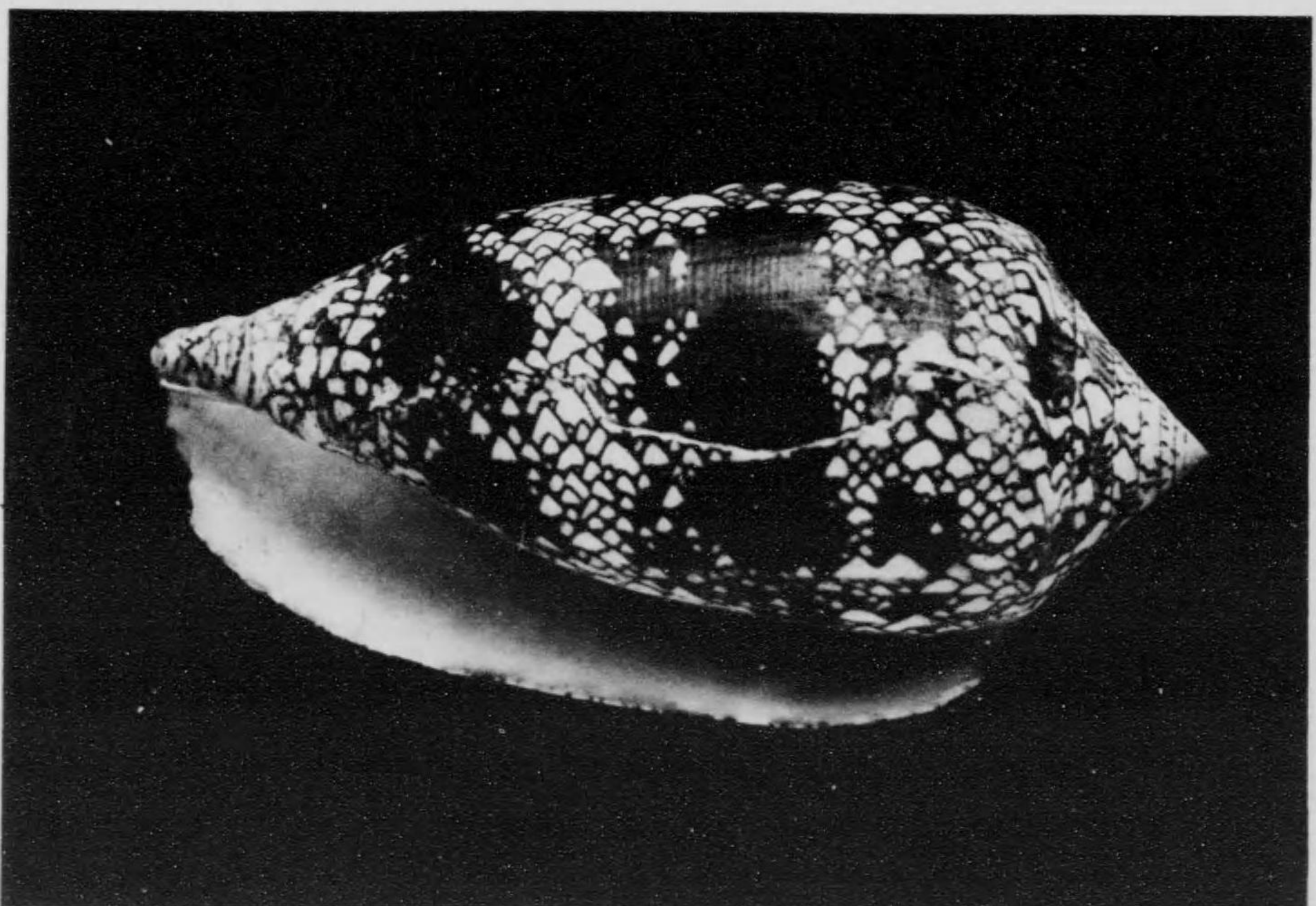
*Comus literatus millepunctatus*, Lam. (山内) キドモヲロク



たがやさんみなし 六介

大き二寸内外、椎實形で、螺塔鋭く、螺層平滑、帯黄褐色の地に、栗色の屈曲したる縦線を畫き、栗色で阻礙せられたる、白色三角波状の斑紋が、格子の様に體螺層を彩つて居る、恐らく芋貝中の美麗なるものであらう、琉球附近に産す





*Conus textile*, Linn

(介六) シナミソサヤガタ



こもんいも 岩川

一寸内外、肩角に隆起を廻らし、體層は膨らみ、白地に鼠色の上に栗色の點で、木理様に斑紋が有つて、小紋染の様である、琉球附近に産す、

さらさみなし 目八

一寸五分内外、白地に肩角部には、黒と鼠を交へたる斑紋と、體層には並行したる點線と有つて、茶色の廣き二帯がある、外面は纖毛狀の皮を被つて居る、琉球附近に産す、

いがいもがひ 平瀬

二寸五分内外、螺塔鋭く、肩角著しく、螺脈數十條有つて、茶褐色の斑紋が、全體にある、琉球附近に産す、





*Conus australis* 'Chem' Auct.

*Conus capitaneus*. Linn.

*Conus arenatus*, Hwass.



ヒガモイガイ  
(八目) シナミサラサ

(川岩) モイシモコ



茶褐色の斑紋が、全體にある、琉球附近に産す、



いごくるま目八

二寸内外、茶色で螺頂に、平滑なる幼殻を存し、肩角に廣き反曲したる刺がある、水管口は長く殻の二倍もある、丁度紡錘の様である、殻口は扁圓で角質の層を持つ、匏匏する様は定めて面白からう、暖海に産す

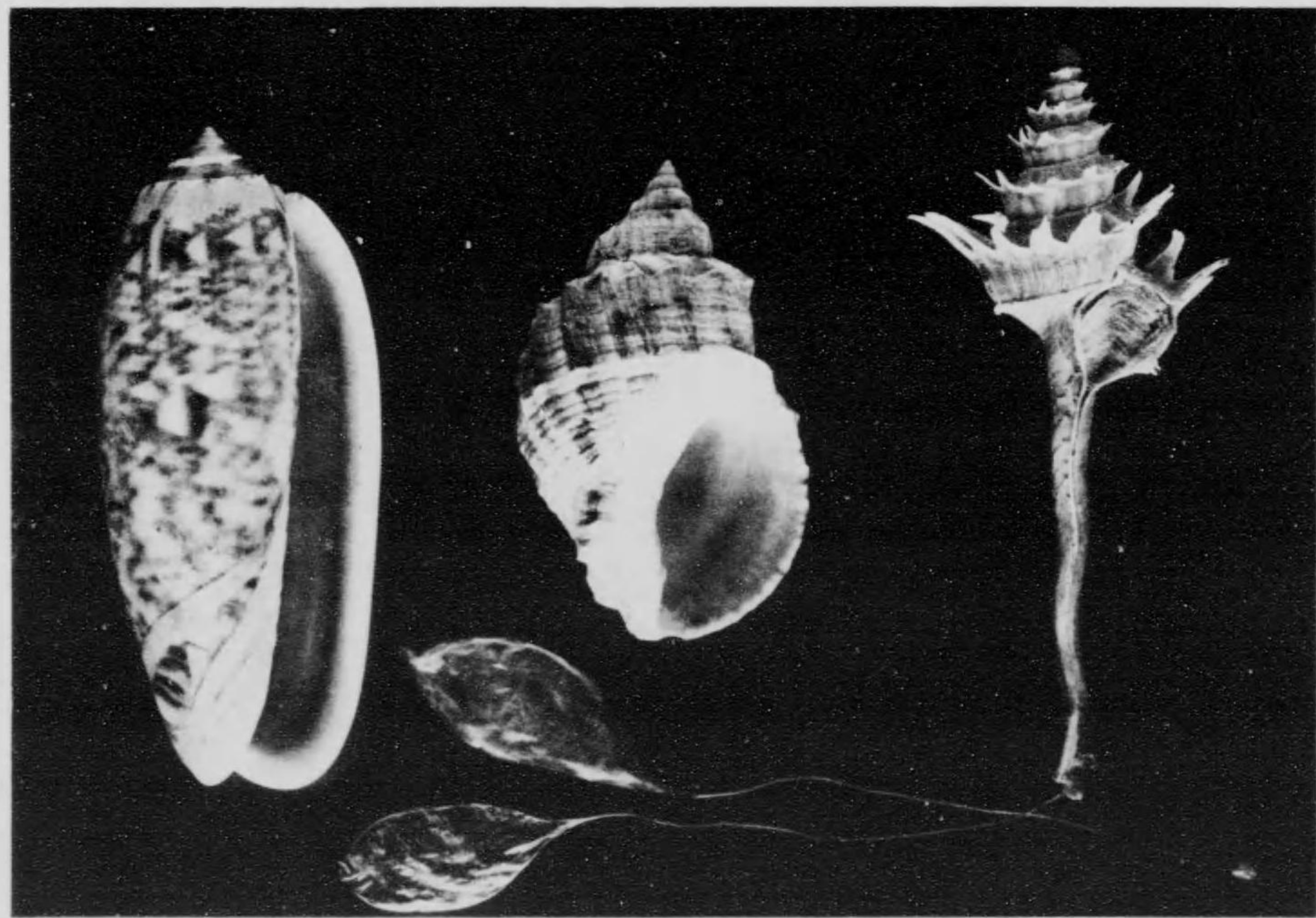
ころもがひ六介

一寸五分内外、帶黃褐色で、縱助螺脈共著しく、肩角には鋭き突起がある、口内に皺多く、貝殻厚し、各地に産す、此貝の卵はナンキン酸漿で、小兒の玩弄に供する

じゆごうまくら目八

椎實形で、螺塔は殆んど埋没し、體層が大部分で、表面は平滑で陶器の様な艶がある、帶黃色に栗色の地紋あり、殻口には狭く、内部は柑赤色で美しい、匏匏する時は、肉で體を包み、水管を出して活潑に移動す、琉球に産す





*Oliva irisans*, Lam. (八目) ラクマウドユジ  
*Cancellaria spengleriana*, Desh 囊卵及(介六)ヒガモロコ  
*Columbarium pagota* Lesson (八目) マルグトイ



しよくこうら 群 品

二寸五分内外、卵形で殻口大きく、殻の外  
面には積状の縦脈が平行し、肩角は鋭く  
尖つて居る、此縦脈積は殻縁部生長の痕  
跡である、美麗なる斑紋が、一面に在る、是  
れ野紅螺の名ある所以である、大小三種  
を琉球に産す





*Harpa davidis*. Bolt.  
*Harpa harpa*. Linn.



(品群) ラウコクヨシ  
(瀬平) ラウコクヨシビオニベ



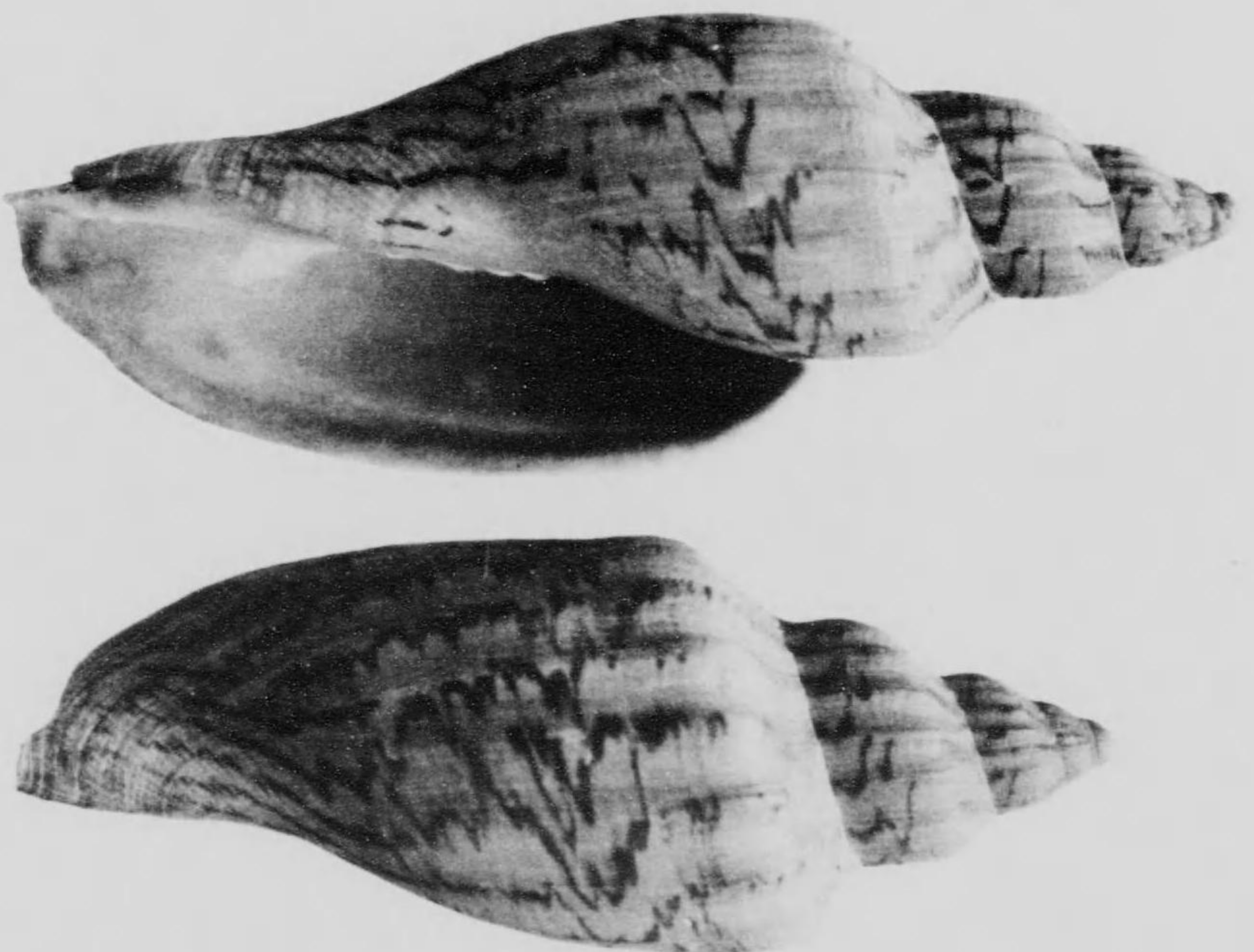
ひたちをび

螺塔高く、平滑なる幼殻を存し、體層は長く縦助  
と螺脈を刻し、斑紋の有るものも、無地のもある、殻  
口は長き隋圓形で、殻内は平滑である、殻軸には  
強き皺あり、帯は無い、本種は日本以南、印度洋、濠  
洲に至る、三角線内に、世界に於ける常陸帶類の  
大部分を産出す、日本には大小五種を産す

いごまきひたちをび 平瀬

三寸内外、平滑で強縦助と、螺脈著しく、帯黄肉色  
の地に、栗色の縦折線がある、殻口内は五六の斜  
皺あり、肉色で光澤あり美麗である、九州西海岸  
に産す





*Voluta rupestris*, Gmel (潮平) ビオチタヒキョトイ



ふでがひ

大小六十餘種ある、色々の形や、斑紋の異つたのが有つて、多くは殻肉厚く、殻軸に皺が有る、大形のは琉球に産じ、小形のは各地に分布す

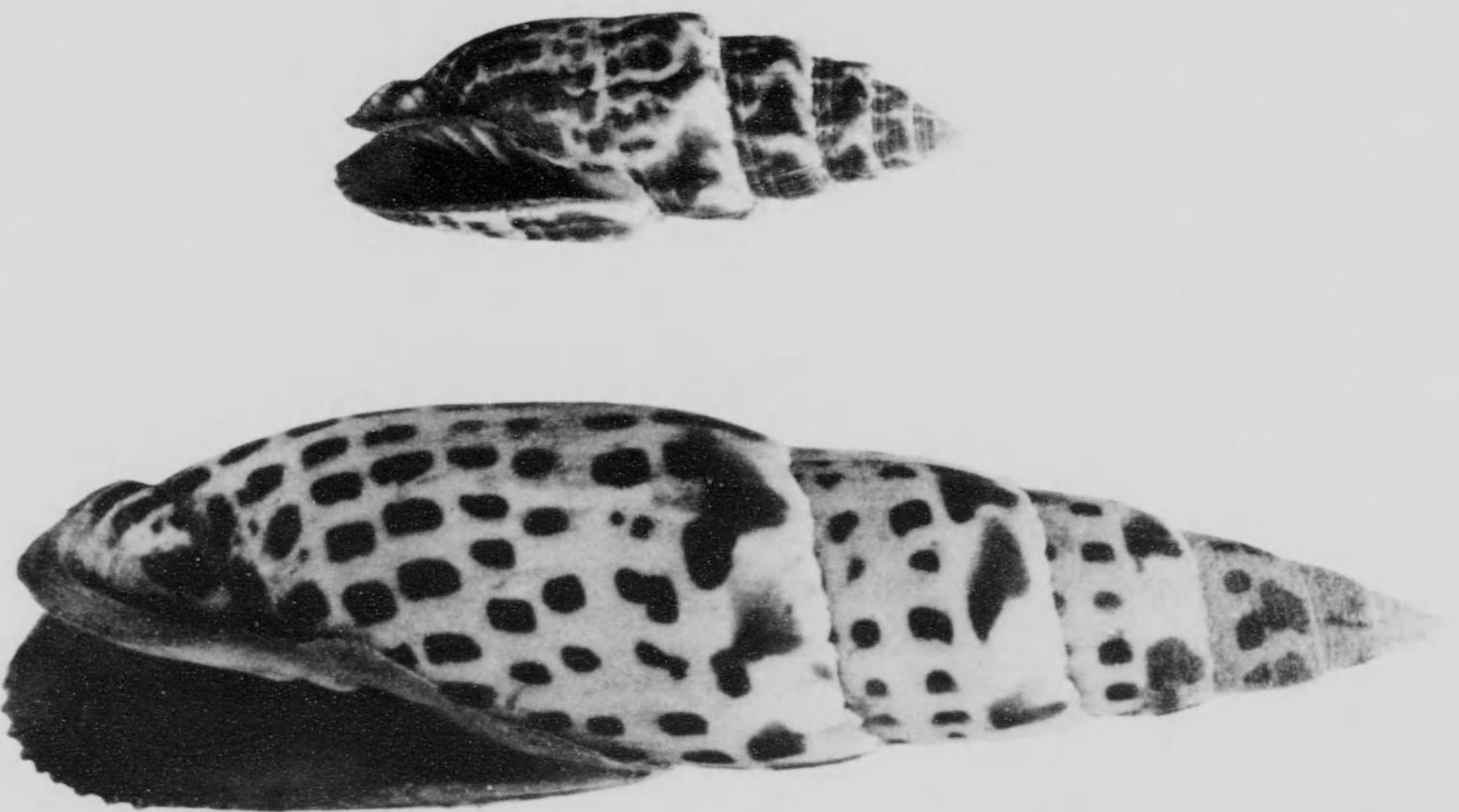
てうせんふで 群品

大琉球竹の如く、四寸内外あり、殻質重厚、白地に荒き赤の斑紋がある、殻口の外唇は、鋸状の齒があり、殻軸には四五の強皺がある、琉球に産す

にしきのきは 六介

二寸内外、肩角に突起状の結節がある、螺層には數列の點線を刻し、白地に濃紅色の大なる斑紋がある、外唇に齒あり、殻軸に皺がある、琉球に産す





*Mitra pontificalis*, Lam.  $\frac{9}{10}$  (介六) バキノキシニ  
*Mitra episcopalis*, Linn. (品群) デアンセウラ



ふごころやたて 平瀬

長さ八九分、殻質厚く丸形で、肩角部に白の線を繞らし、栗茶色の外皮を被り、殻口は耳形で、殻軸に皺がある、琉球に産す

おほみのむし 岩川

長さ二寸以下、殻質厚く、螺塔は鋭く尖り、荒き強縦肋は肩角に著しく、黄色に黒褐色の條帶が、肩角部に一條、中央には廣く、下部には狭いのが繞つて居る、殻口は細長く、殻軸に四強稜がある、琉球に産す

いもふでがい 岩川

長さ一寸五分内外、殻質厚く卵形で、螺塔低く、表面平滑で、平行したる螺線を刻して、鼠色の茶を交へたる雲紋がある、殻軸には皺がある、琉球に産す





*Cylinbra dactylus*, Lam.



*Mitra (Turricula) plicata*, Lam.



*Mitra (strigatella) columbelliformis*, Kiener (瀬平) テタヤロコトフ

(川岩) ヒガデフモイ

(川岩) シムノミホオ

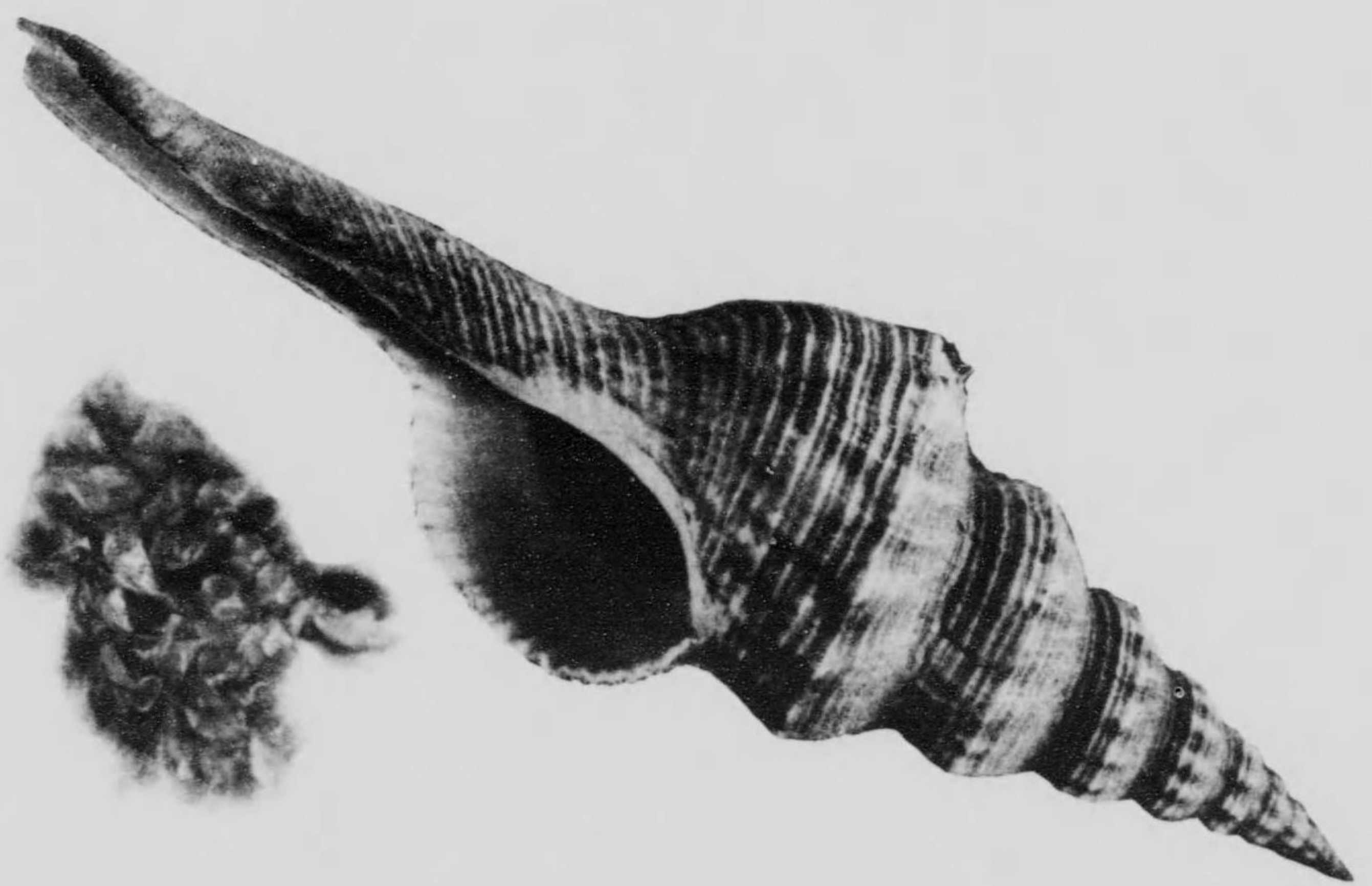
平滑で、平行したる螺線を刻して、鼠色の茶を交へたる雲紋がある、殻軸には皺がある、琉球に産す



ながにし目八

長さ三四寸、螺塔高く階段的で、大小の螺  
助あり、肩角結節著しきものも、丸味を帯  
びたるものも色々ある、表面に茶褐色の  
纖毛ある外皮を被り、殻口に階圓形で、滑  
かに角質の唇を持つ、水管口は長く、口嘴  
状である、各地に産す、此貝の卵囊はきつ  
さほゞづきで、小兒の玩弄に供せらる





*Fusus perplexus*, A. Ad.

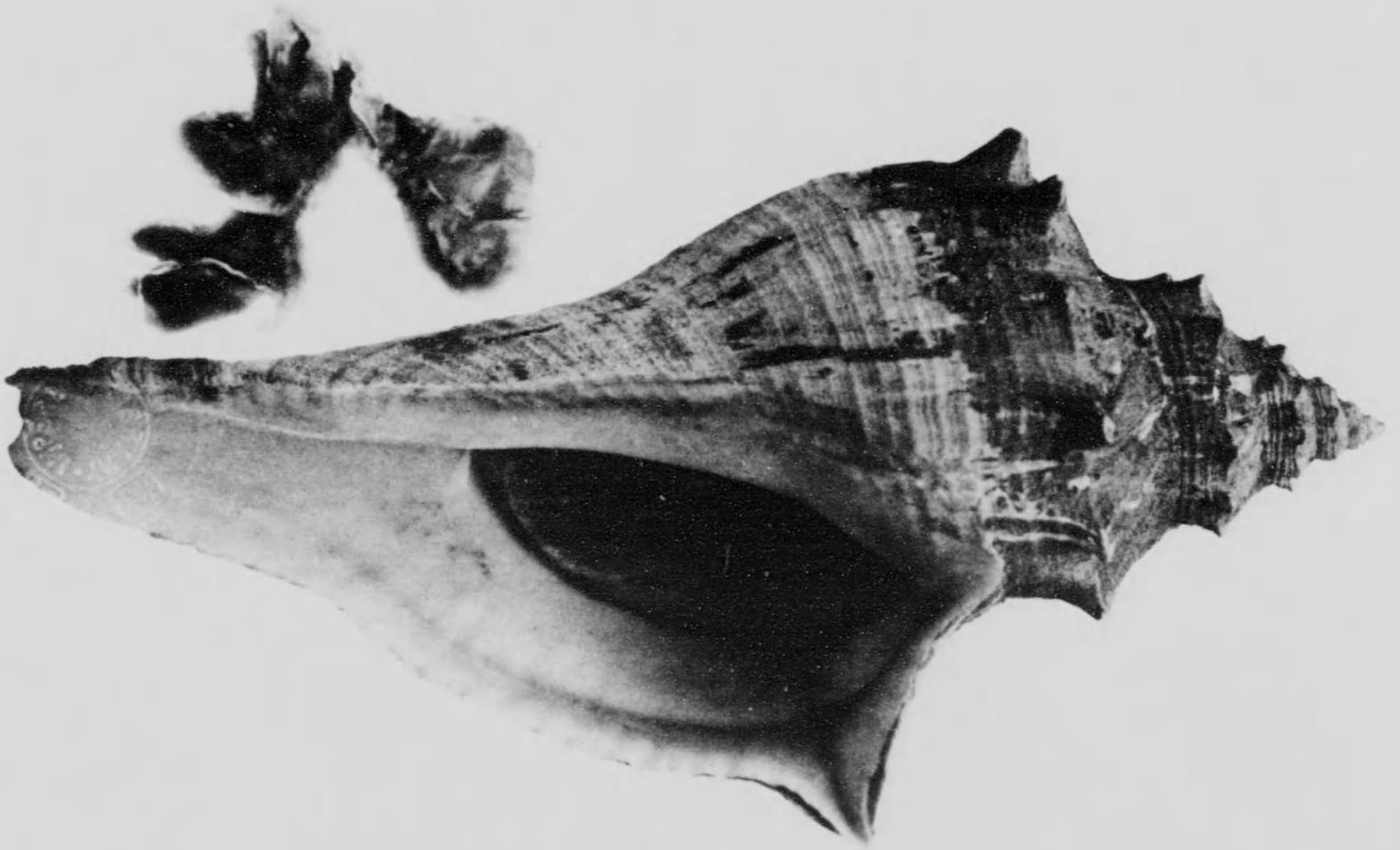
囊卵及(八目)シニガナ



てんぐにし日八

長さ六七寸内外、螺塔はながにこより低く、肩角の結節は著しきもの、丸味のものさある、殻は長三角形で、表面に纖毛ある外皮を被り、水管口は廣く、殻口内は淡肉色で光澤あり、長階圓の厚き角質の層を持つて居る、各地に産す、此貝の卵囊は、軍配酸漿又うみほ、づきで、小兒の玩弄に供する





*Hemifusus ternatensis*, Gmel. 囊卵及(八目)シニダソナ



おにこぶし 岩川

長さ二寸五六分、殻質重厚、螺塔と體層とは凡そ同じ長さで、肩角の結節は長く、刺の様に突出して居る、黒栗色で、口内は白く、琉球に産す

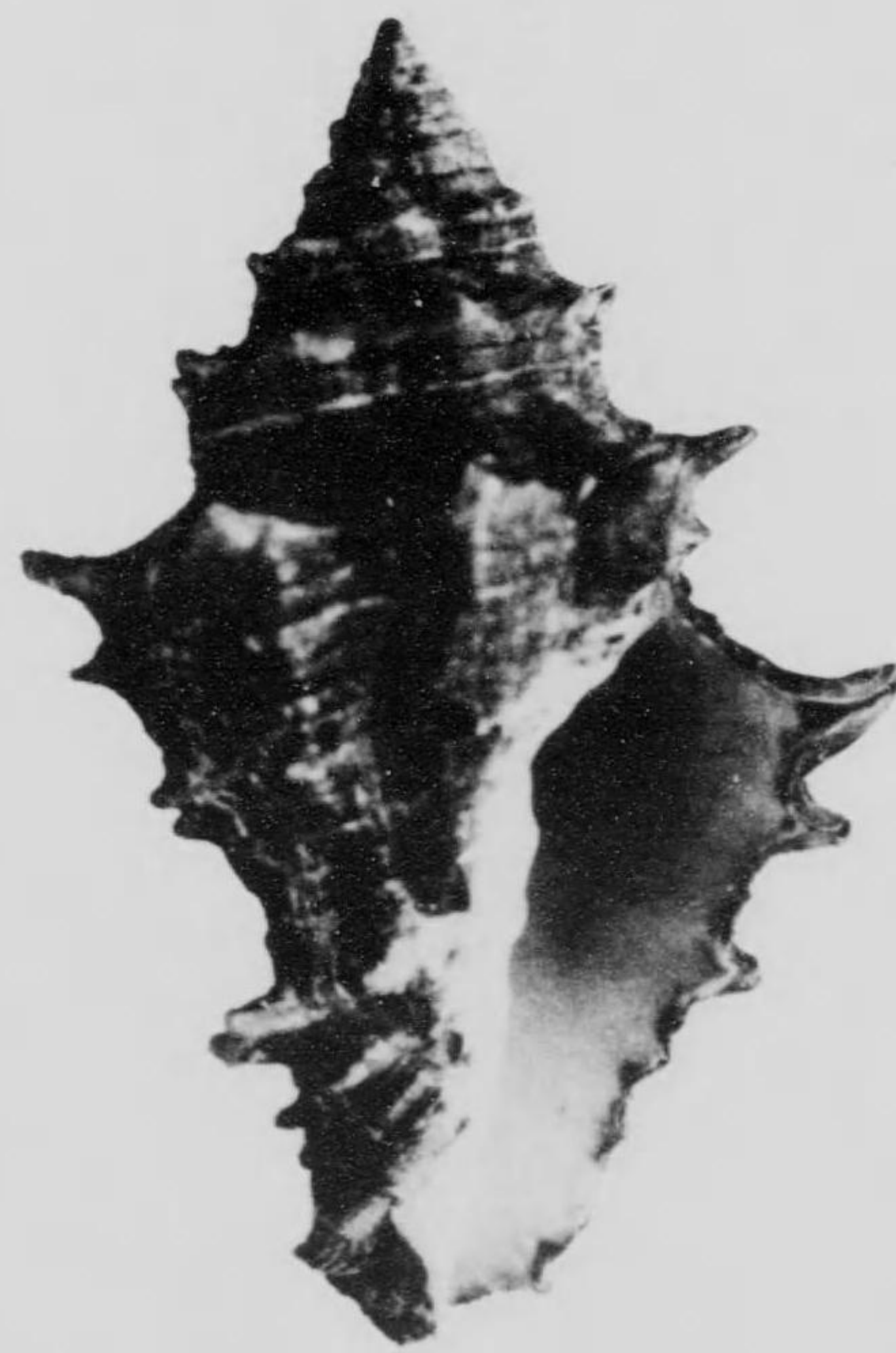
しらいごまき 目八

三寸内外、螺塔高く、螺層は膨らみて縫合深く、四五條の螺肋を繞らし、茶色の纖毛を被つて居る、殻口は殆んど圓形で、口内は白く滑つて、角質の薄き層を持つて居る、各地に産す





*Buccinum leucostoma*, Lischk.  
*Vasum ceramicum*, Linn.



(八目) キマトイラシ  
(川岩) シブコニオ



みづすい六介

大き一寸三分内外、漏斗状で、螺塔は扁平にして中央に粟粒状の幼殻を存し、螺層は漸次斜に下降し、殻口は次體層の底部に位置して居る。龍骨上には、荒き爛状の内方に曲れる突起あり、臍口廣く、殼軸部を廻りて、長き鋸齒状の突起が有る。表面純白色の地に、淡褐色を彩り、布目様の細脈が有て美しい、紀伊地方に産す。

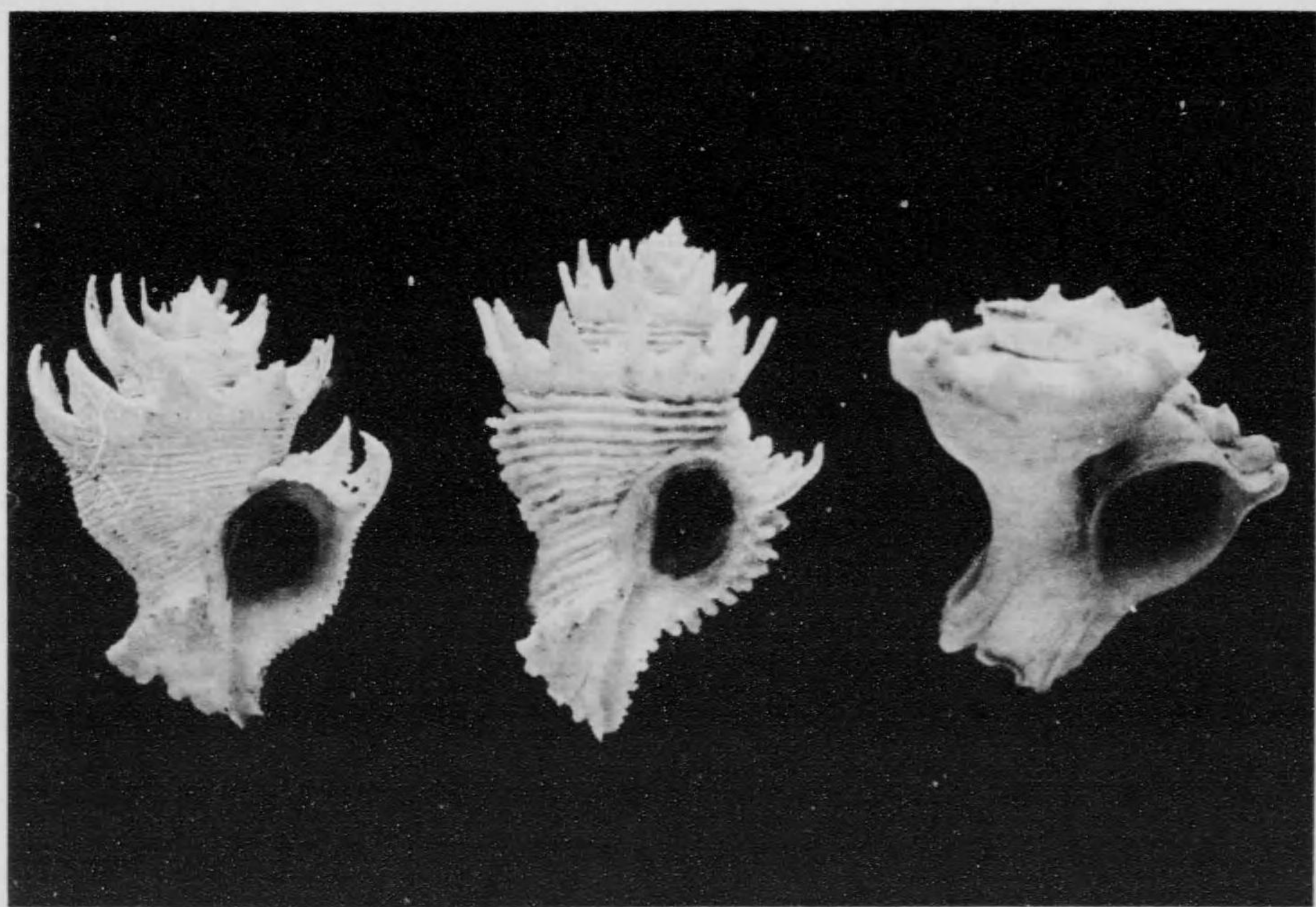
てんによのかむり介志

一寸五分内外、螺塔高く龍骨上に鋸齒状の荒き突起あり、縫合深く、此間にも一條の突起が有る。又體層に數列の螺脈突起を繞らし、臍口深く、殻口は隋圓形をなし、水吹より殼質厚く、純白色にて美しい、紀伊地方に産す。

ききょうにし介志

一寸二分内外、龍骨上の突起は、天女冠より荒くて高く突出して居る。體層の螺脈隆起は密で有る。臍口は小さい、外面帯黄白色で口内は純白で有る、紀伊地方に産す。





*Latiaxis deburghi*, Reeve. (志介) シニウヤキキ  
*Latiaxis japonica*, Dkr. (志介) リムカノヨニンテ  
*Latiaxis mawae*, Gray. (介六) イ ス ヅ ミ

一寸二分内外、龍骨上の突起は、天女冠より荒く  
 て高く突出して居る、増幅の螺脈隆起は密で  
 有、開口は小さい、外面帯黄白色で口内は純白で  
 有、紀伊地方に産す

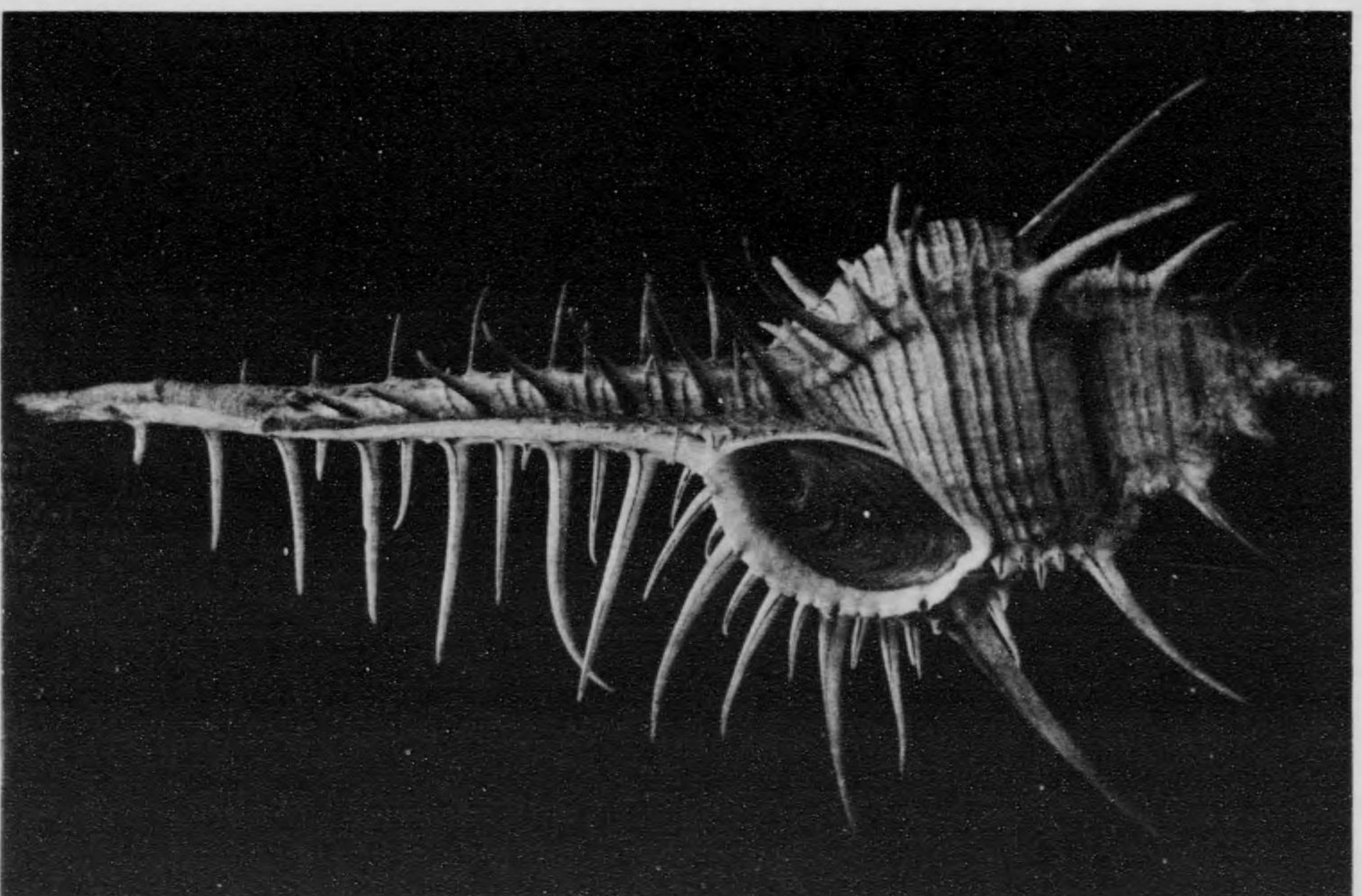


あくきがひ六介

長さ五寸内外、螺層丸く、數條の紫褐色の螺脈あり、縦脈脈上には長く、鋭き刺が百二十度の角を爲して、三列に突起して居る、殻口は隋圓形で、角質の唇を持つて居る、水管口は甚だ長く、體の二倍も有る、又此水管上にも、長き鋭刺が竝んで有る、紀伊附近に産す

一種小形で、螺脈に色なきものは、骨貝と云ふ





*Murex troscheli*, Lischk  $\frac{1}{2}$

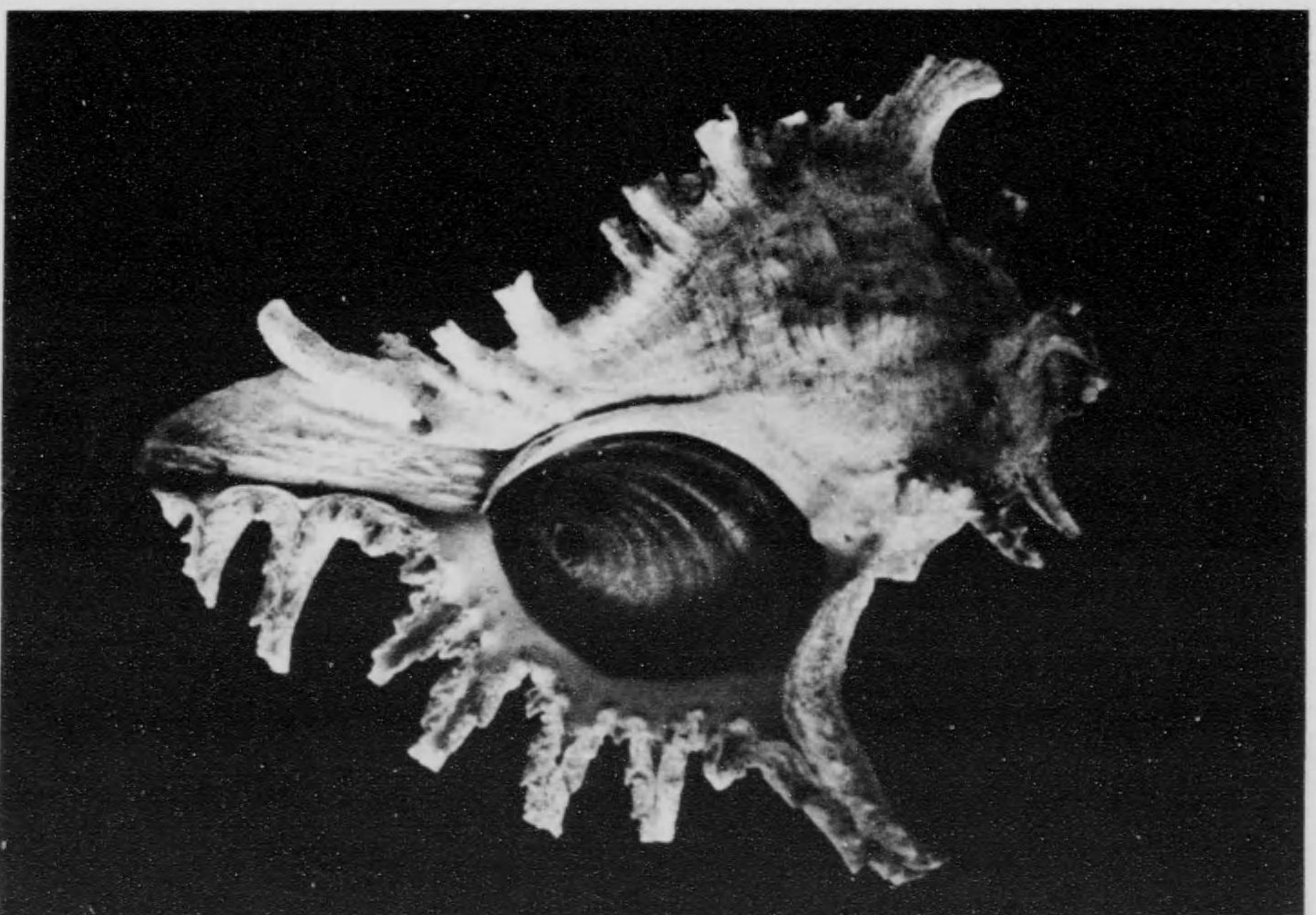
(介六) ヒガキクラ



てんぐがひ 百介

大き五六寸内外、殻質重厚、螺塔低く、縦  
脈上には樹葉状の反曲したる突起  
がある、肩角部で特に發達して居る、殻  
は白色石灰質で、殻口は橢圓形で、角質  
の堅固なる層を持つ、水管口稍長く、後  
方に反曲して居る、九州南部より琉球  
に産す





*Murex (Chicoreus) ramosus*, Linn.  $\overline{10}$  (介百) ヒガゾツラ

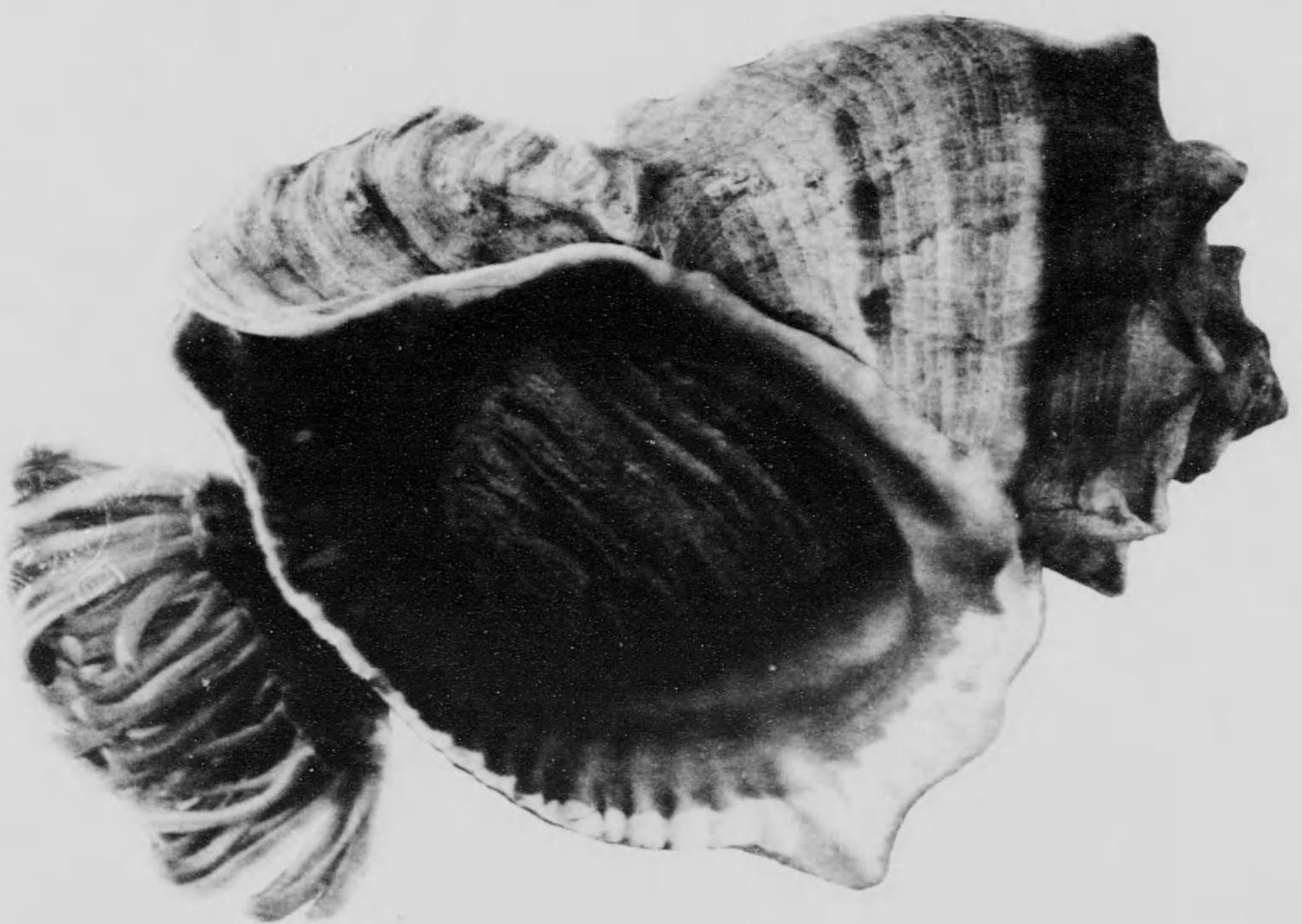


あかにし目八

三寸内外殻は球状で螺旋低く、鼠色に褐色の斑紋あり、生服線は多く、肩角で葉状突起をなし、縞帯大きく反曲し、殻質厚く、殻口内は平滑で、美麗なる紅色を彩り、角質の薄き層あり

肉は食用とし、貝殻は彫刻して裝飾品を作り、又漁村では、飯箱蓋の代用とす、此貝の卵囊は長刀酸漿で、小兒の玩弄に供す、全國各地に産す





*Rapane beccar thomasi*, Crosse 囊卵及(八目)シニカア



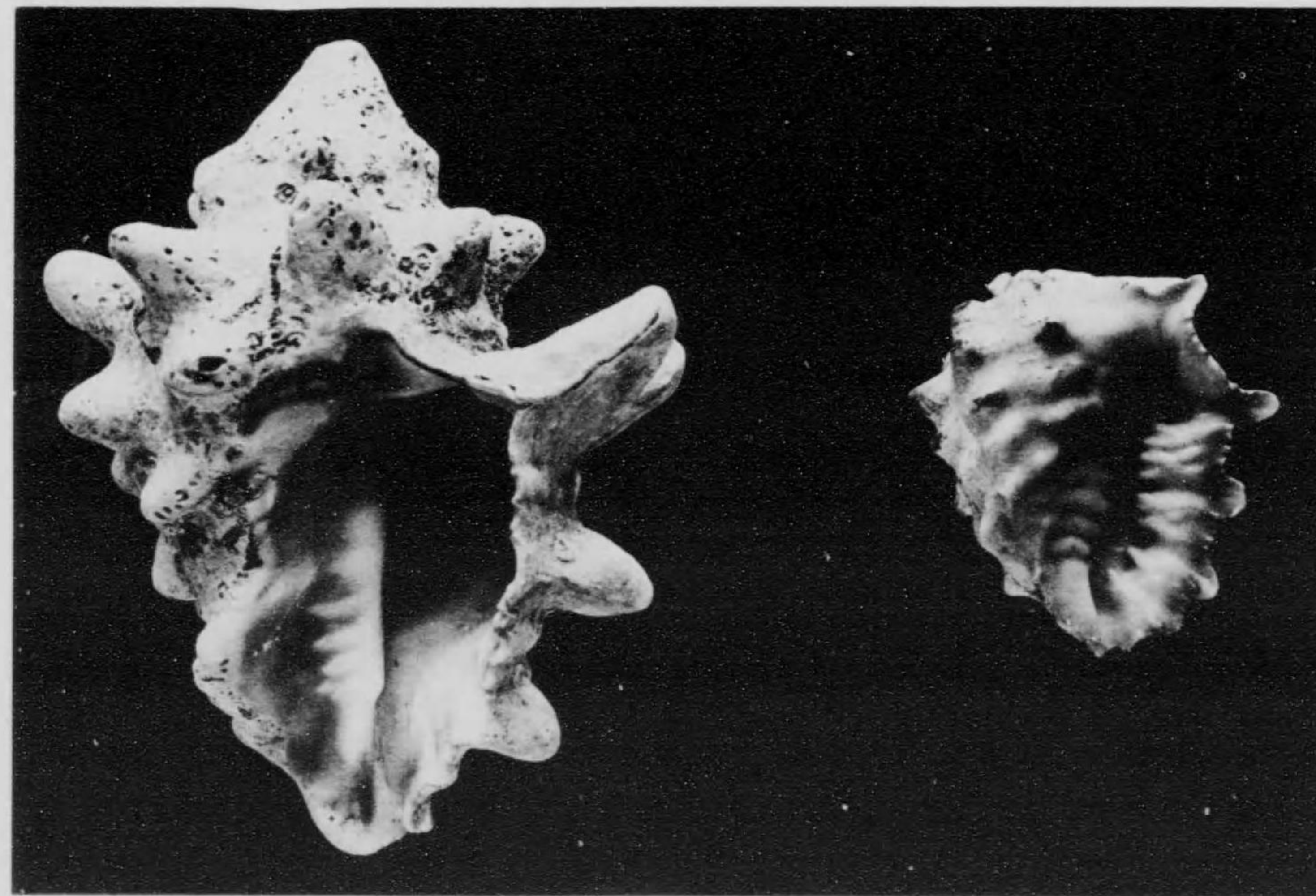
むらさきいがれいし 岩川

長さ一寸内外、殻質重厚、殆んど圓く、數列の刺狀螺結節を繞らし、殻口は兩唇の齒で狭く、濃紫色を呈し、薄き角質の層を持つ、琉球に産す

しらくもがひ 目八

長さ二三寸、殻質重厚、螺塔尖り、大なる瘤狀の突起あり、殻口内は淡肉色で、外唇には齒がある、殻軸は眞直である、琉球に産す





*Purpura (thalessa) armigera*, Chem  
*Ricinula horrida*, Lam.

(八目) ヒガモクラシ  
(川岩) シイレガイキサラム



ふぢつかひ 群品

三寸内外、殻質重厚、蝶塔高く、茶褐色の  
長き繊毛を被り、殻は柑褐色を帯び、縦  
脈間の結節は著しく突出し、殻口内  
は白く、黒點を交へ、數列の齒で口を狭  
めて居る、水管口は廣く屈曲して居る  
琉球に産す





*Aquillus (Lotorium) lotorium*, Linn. (品群) ヒガツヂン



ほらがひ目八

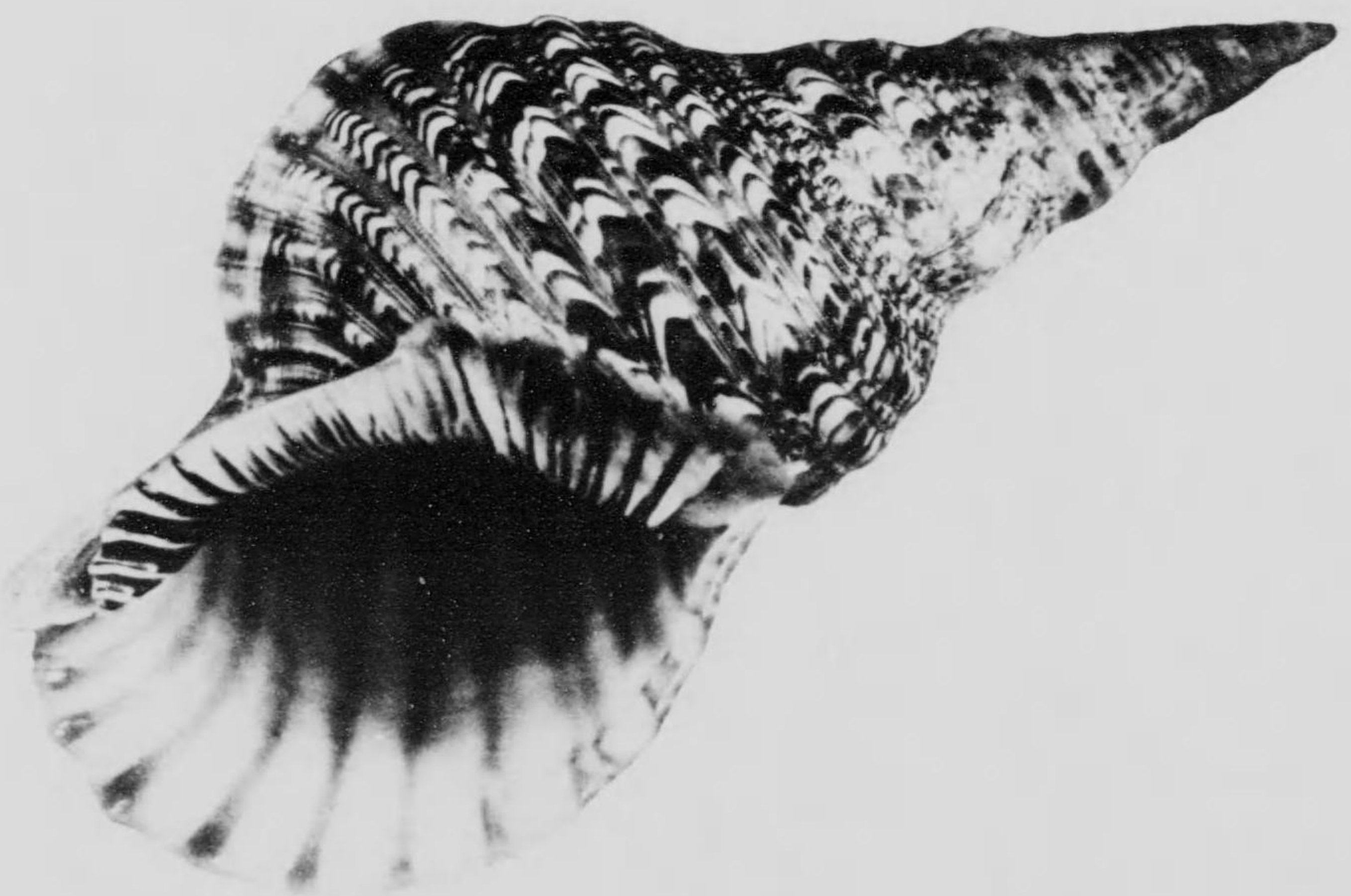
長さ五六寸より、二尺位まで、大小の變化が多い、螺塔は尖りて紡錘形で、十二三の縦脈脈と、數條の廣き螺助と、小助とを刻し、廣き助には、白茶栗色等の、交りたる木理狀の斑紋を繞らし、其美麗で、殼口には、隋圓形で、内部は麗しき柑赤色で、内唇は白と濃き栗色と、交りたる模様がある、外唇の縁は齒がある、角質の層を持つ、琉球に産す、  
肉は食用とし、介殼は昔戰陣の號笛に用ひたので陣貝と云ふ、又山伏の法螺貝とて名高い、南洋土人は鍋の代用として、儀式の時號笛に用ふと云ふ事である、  
近時介類を彫刻し、裝飾品に用ふ、

山伏の梵貝吹峰の夕ぐれに

そこさも知らぬすくのうわ風

舞連法師





*Aguillus (Septa) tritonis*, Linn.  $\frac{1}{3}$  (大目) ヒガラホ



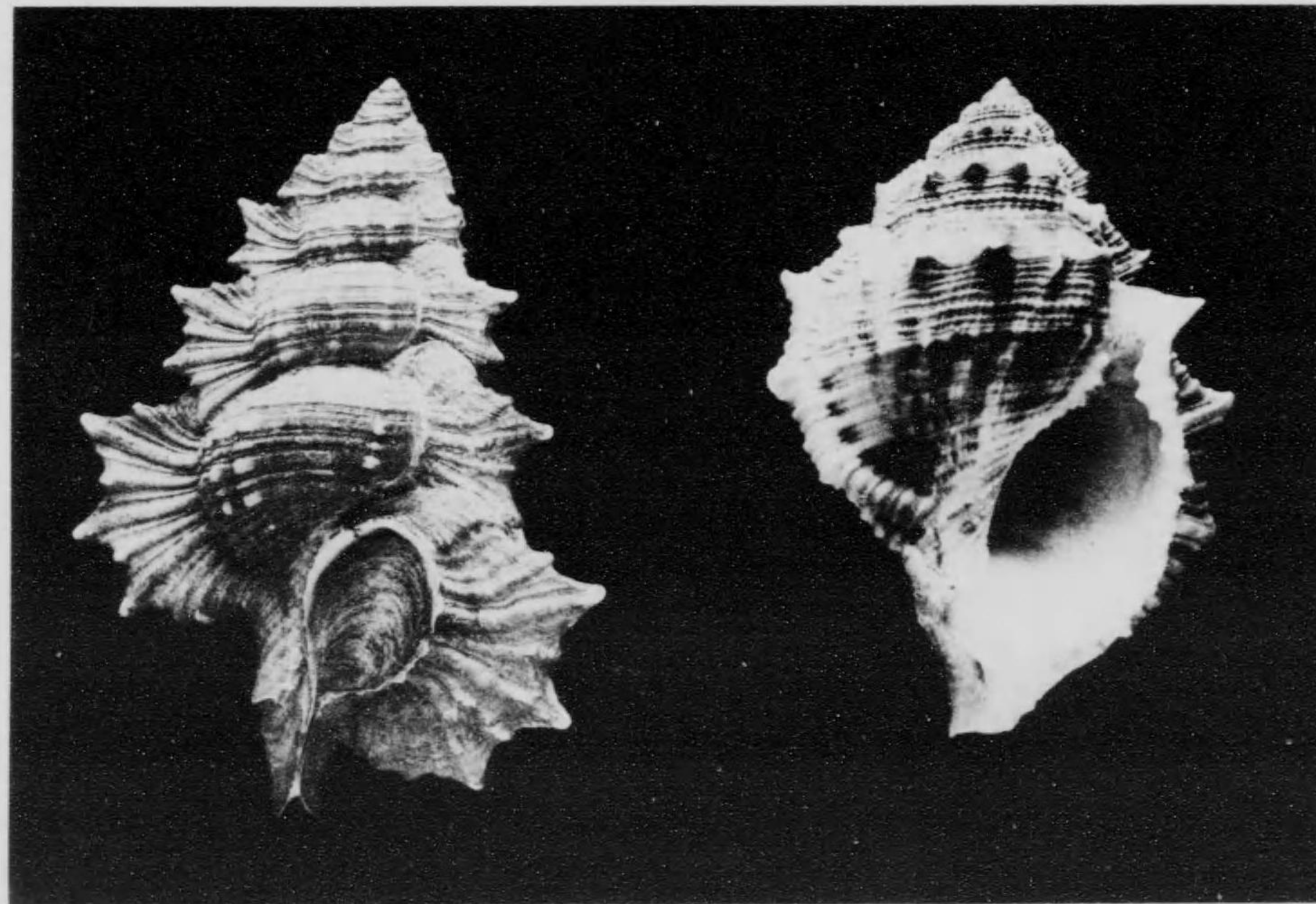
みやこぼら 目八

長さ二寸内外、隋圓形で少しく扁平、黄褐色で兩側に縦脈脈があり、數箇の鋭き肩角と、布目様の彫刻とあり、殻口は隋圓形で、前後兩溝は著しく、外唇に皺狀の齒がある、一見幼貝の如く、角質の層を持つて居る、各地に産す、

まつかはがひ 六介

長さ一寸五分内外、殻は壓搾せられたるが如く、扁平で、數條の結節狀の螺肋を繞らし、兩側には鱗狀に發達せる、縦脈脈ありて、甚奇觀である、殻口は小さく隋圓形で、角質の層あり、水管口は稍長し、相房紀、伊等に産す、





*Gyrineum (Biplex) perca*, Perry.  
*Gyrineum (Bufo) rana*, Linn

(介六) ヒガワカツマ  
(八目) ラボコヤミ

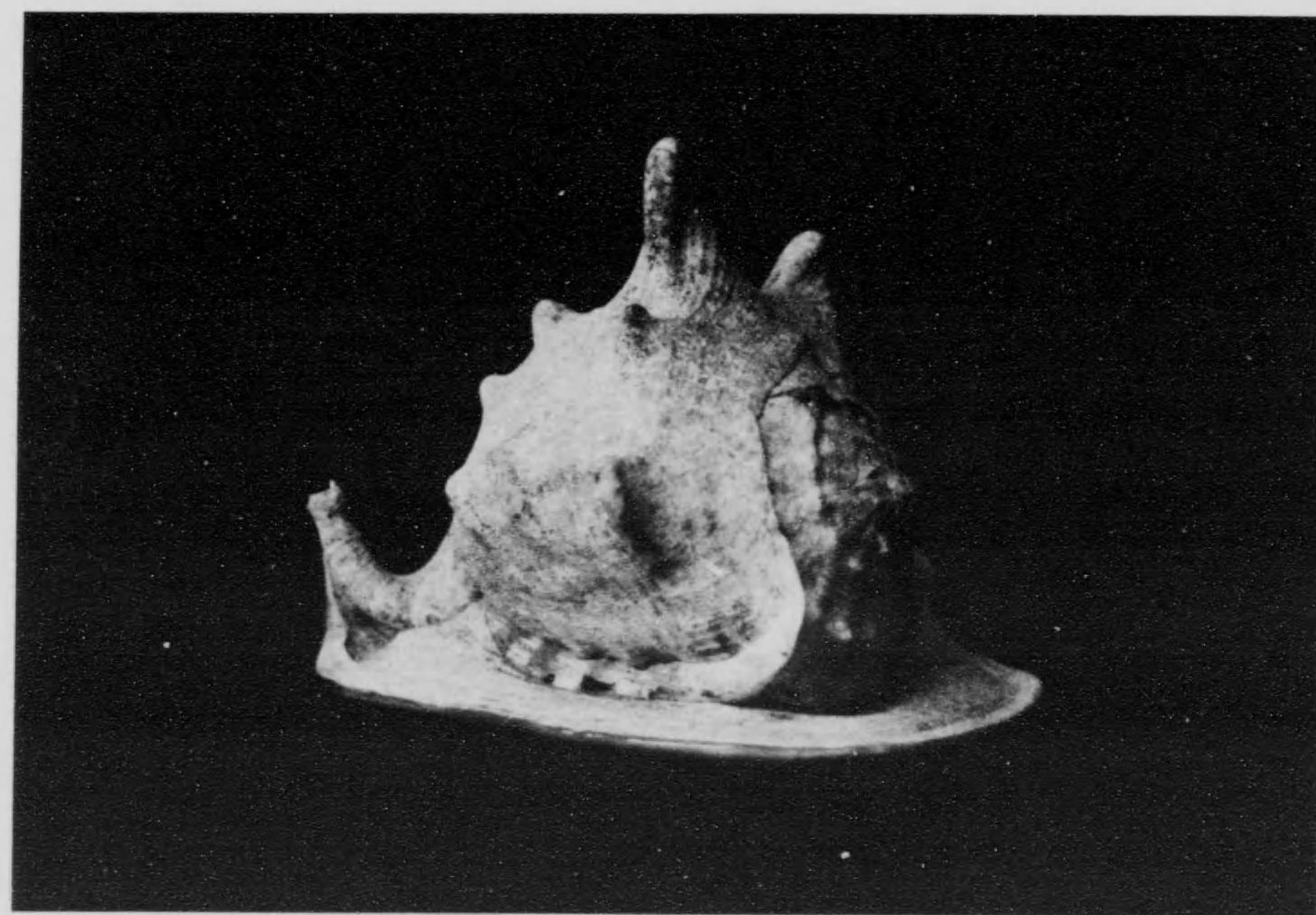


たうかんむり 六介

又千歳貝と云ふ、大き五寸以上、尺に餘るものも  
ある、殻質重厚、石灰質の白色表皮で、粗き布目様  
の彫刻あり、螺旋は殆んど扁平である、肩角には  
發達したる瘤狀の尖起あり、尙體層にも數箇の  
突起を現はし、兩唇部は板狀に延長して、階圓形  
を爲し、殻口狭くて數箇の皺がある、前溝は甚し  
く反曲して、節割する様は壯觀である、琉球以南  
に産す、

殻は上層白色、下層茶色より成り、彫刻して種々  
の裝飾用品を作る、





*Cassis cornuta*, Linn  $\frac{1}{8}$

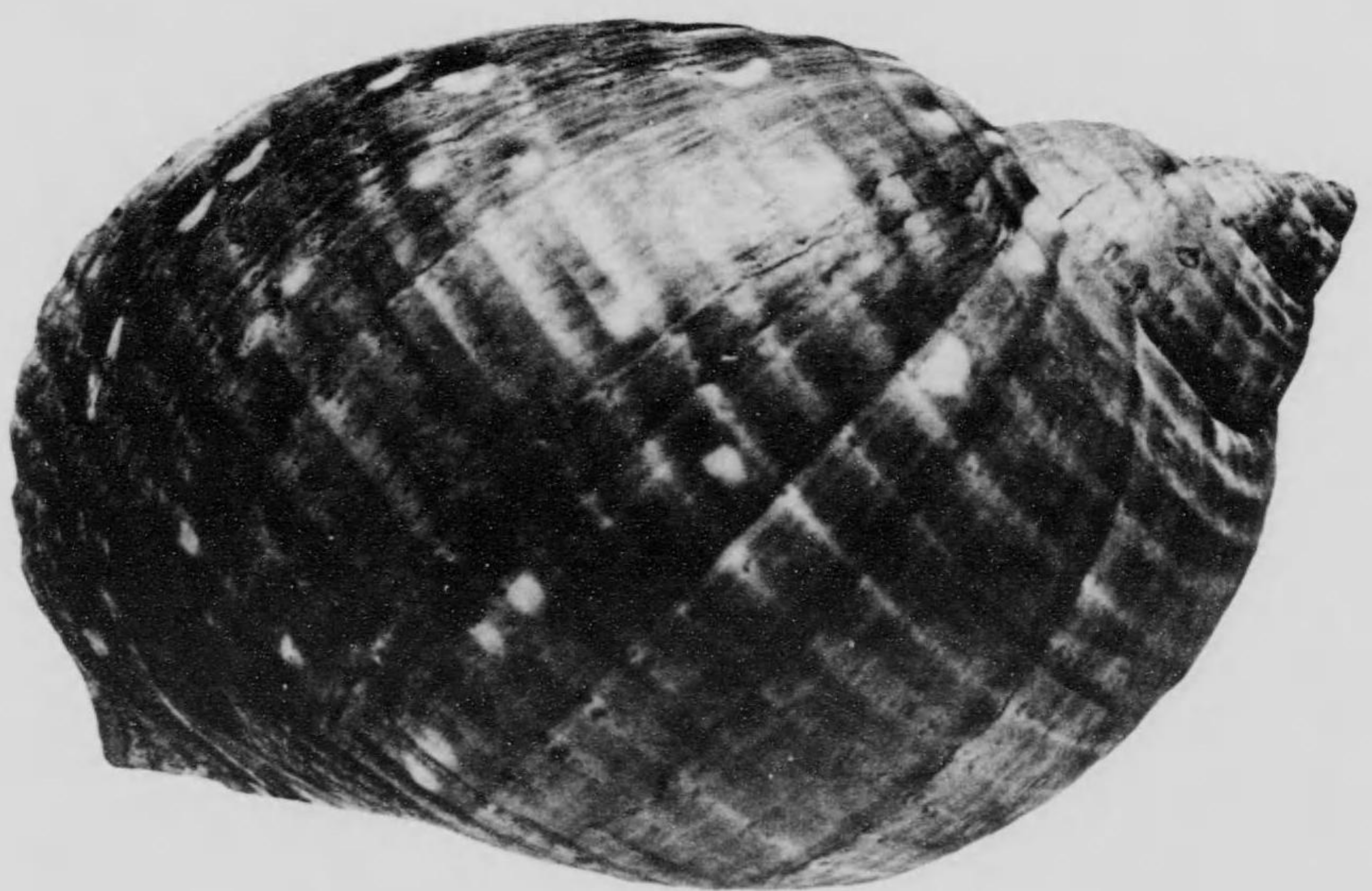
(介六) リムンカウタ



うづらがひ 六介

長さ三寸内外、殻は圓き卵形で、薄く脆  
弱である。荒き螺脈あり、栗茶色で薄き  
白の斑紋があつて、緞の如き外觀であ  
る。殻口は大きく、動物は長き水管を、大  
きなる體を出して、匍匐する状美事であ  
る。各地に産す。





*Tonna perditx*, Linn.

(介六) ヒガラツウ



たからがひ

大小七十餘種ある、大低卵形で、殻口長く、兩側に齒あり、種々の斑紋美しく、玩具家の賞翫する所である。

ほしたから 群品

大き二寸五分内外卵形で、殻質重厚、平滑で、螺層は没し、殻口狭く、兩層内方に巻込み、鋸状の齒が列んである、全體白地に鼠色の雲紋と、黒茶の大なる斑點が密布してある、動物は長さ水管を出し、體の一部で殻を包み、匍匐す、琉球附近に多く産す。

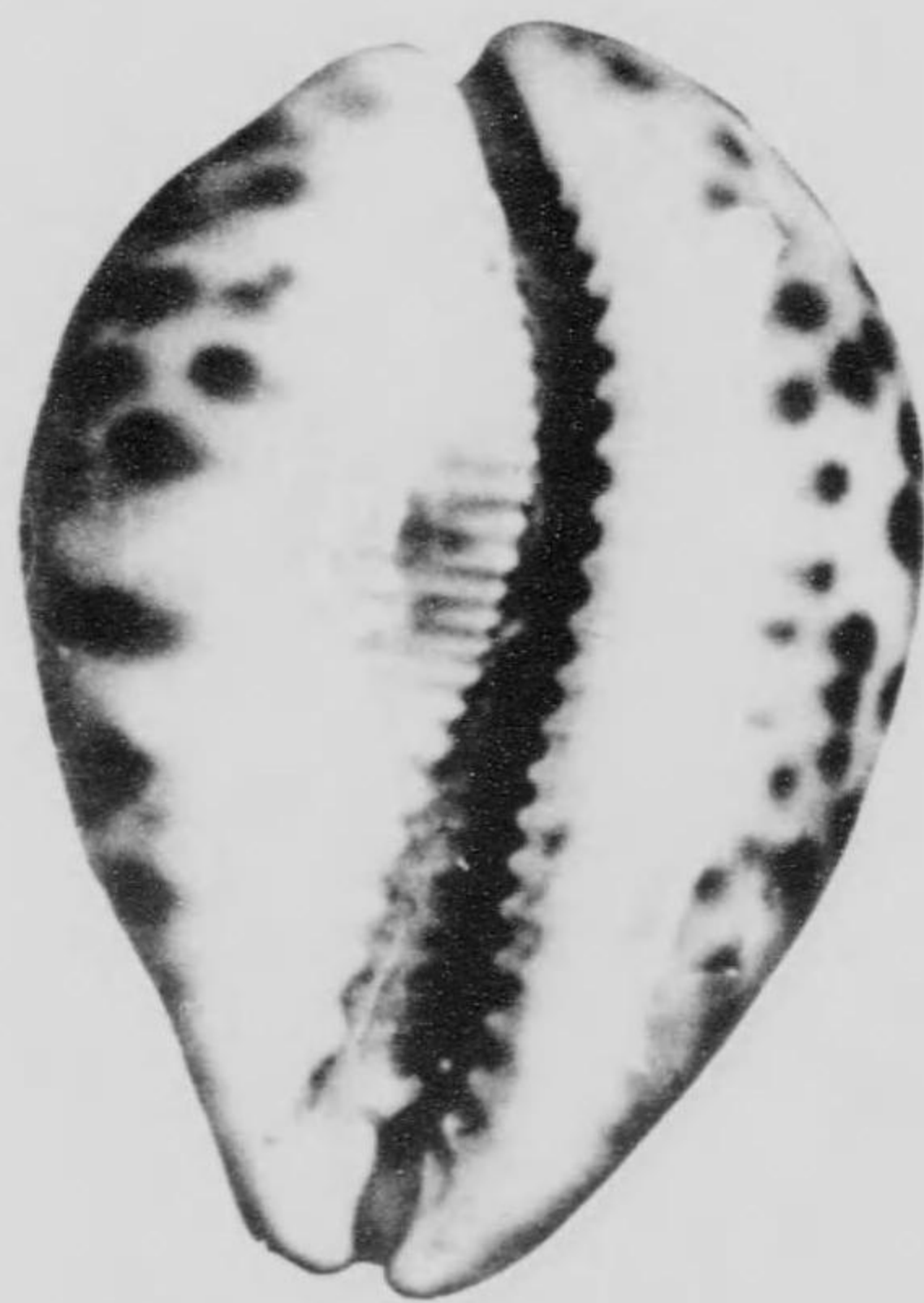
昔産婦が此貝を握り、安産を得るものと信ぜられて居たので、子安貝の名が有る。

介殼は種々の細工に使用す、殊に色層を利用したる彫刻に用ひらる。

子安貝二見の浦を産湯哉

其 角





*Cypraea tigris*, Linn.



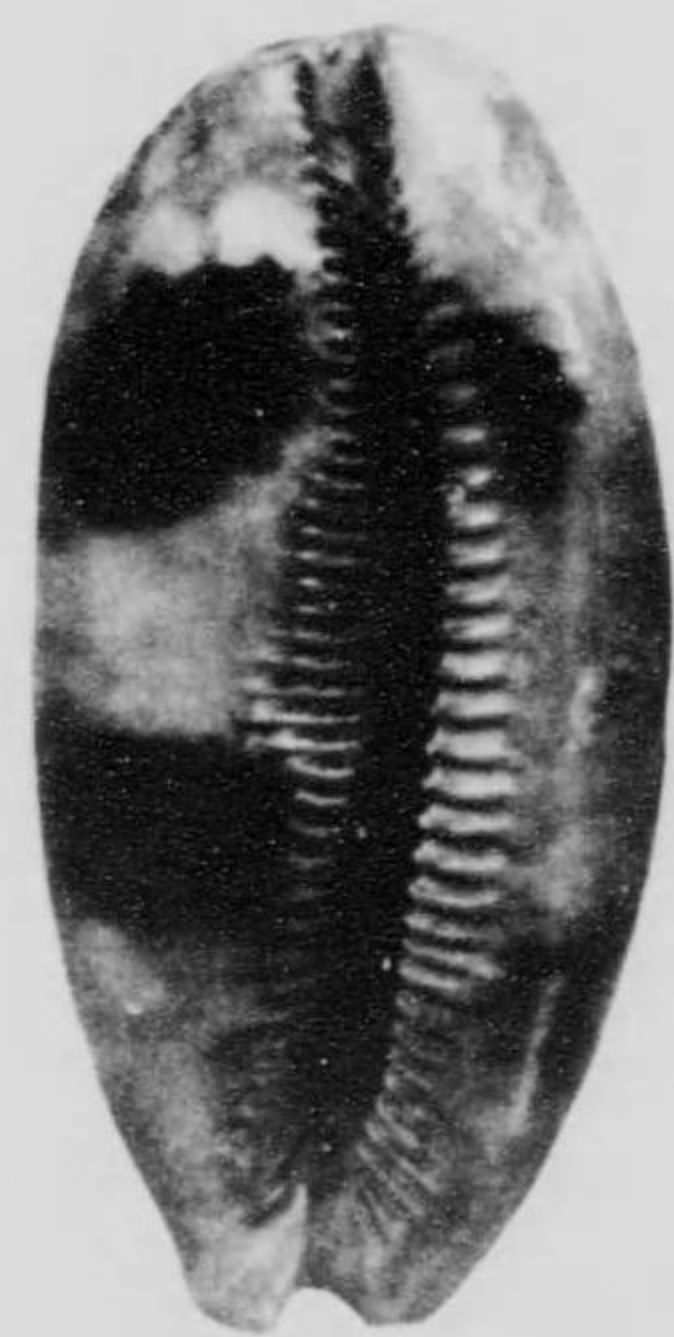
(品群) ラカタシホ



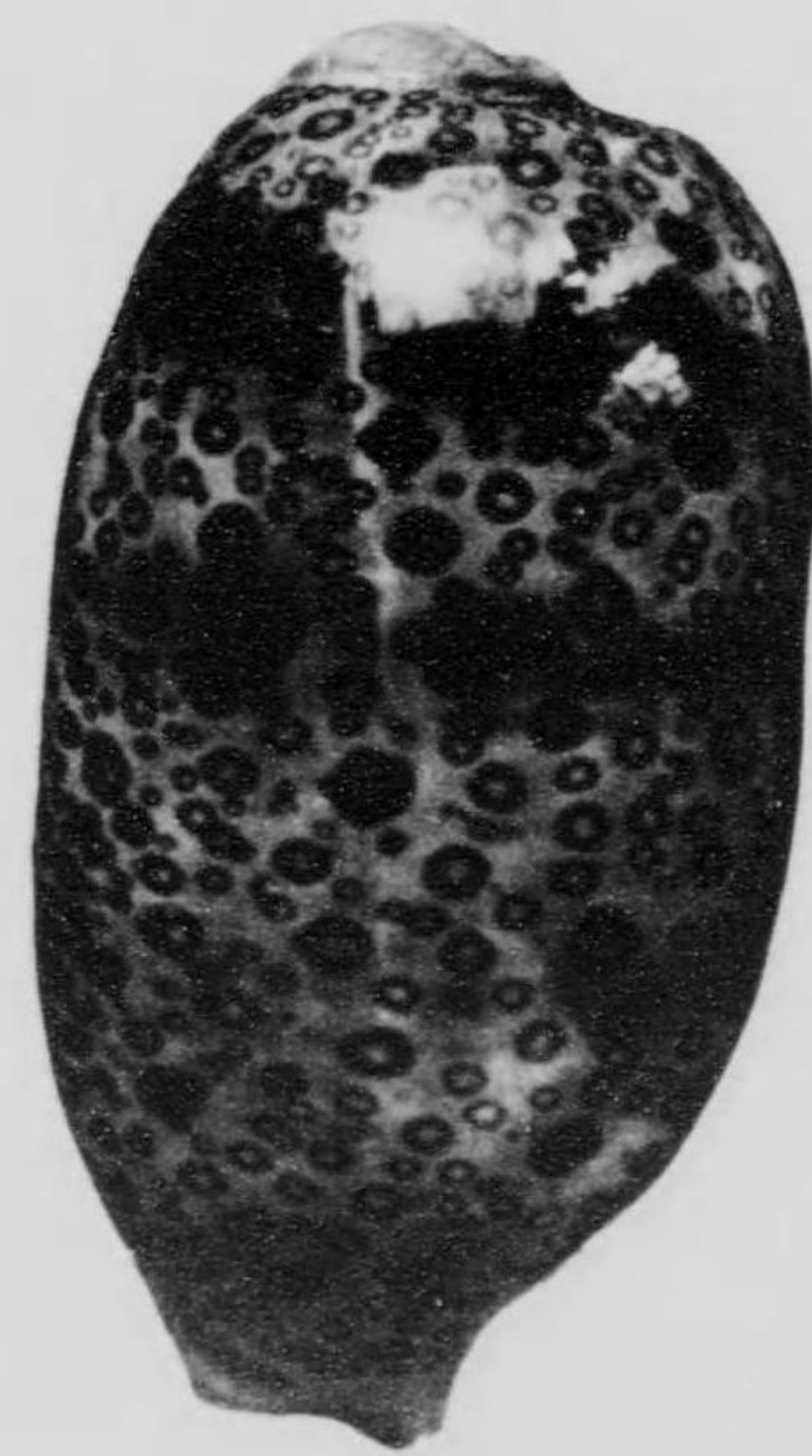
じやのめたから 目八

二寸内外、長き卵形で、淡灰褐色で  
表面には茶褐色の環状斑紋を密  
布し、殻口部に黒き帯あり、莖美麗  
である、琉球に稀に産す、





*Cypraea argus*, Linn.



(八目) ラカタメノヤジ



すそむらさきたから 内山

長さ一寸内外、背には茶色に、白の斑點を、縦に一線を畫し、兩方は帶黄白色に、薄紫の斑點がある、殻口は帶黄色で、少し屈曲し、齒は長く茶色を彩つて居る、琉球に産す、

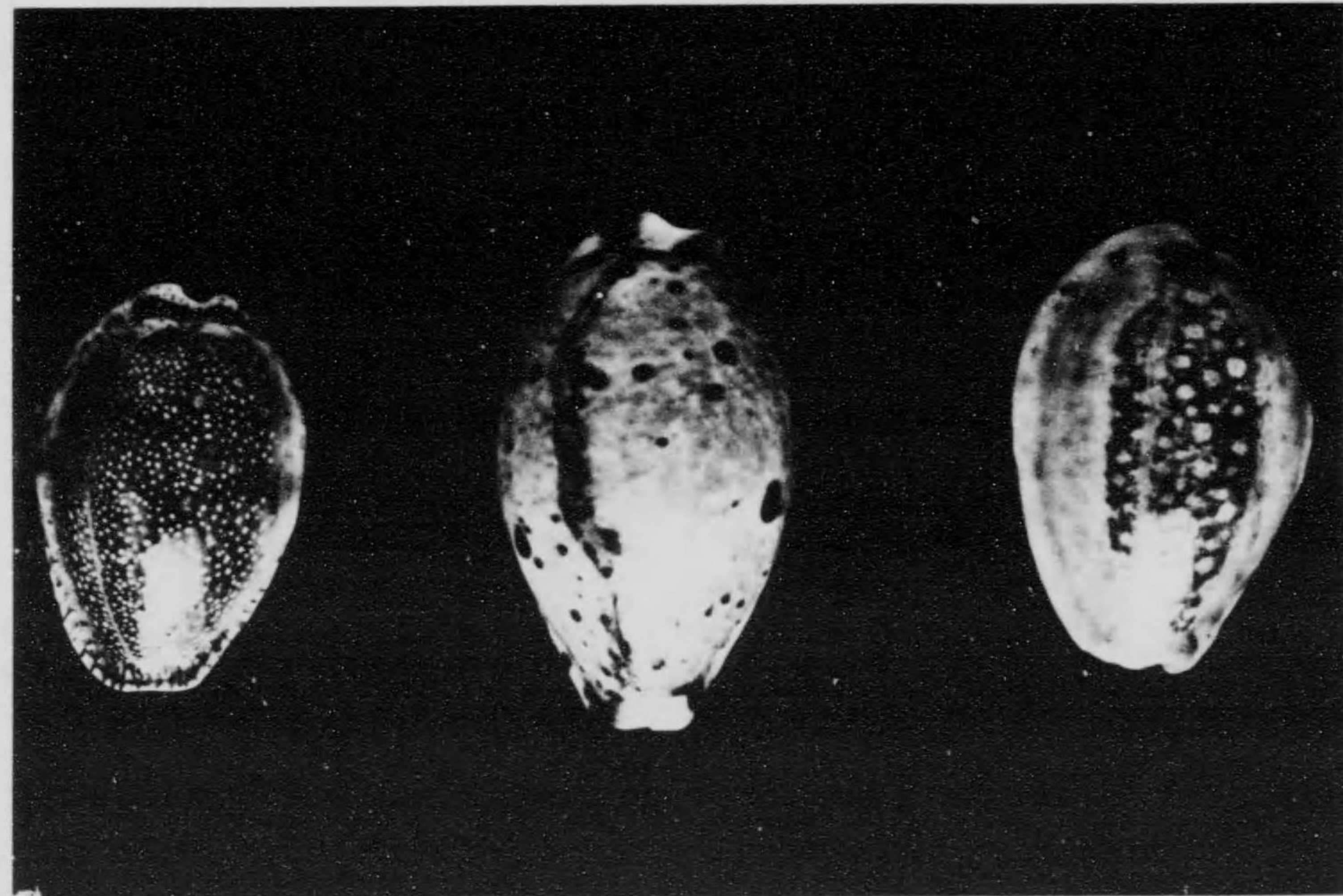
ひめほしたから 岩川

長さ一寸内外、卵形で、背に細き茶の點線あり、兩方は白地に、灰鼠色の斑紋を密布し、其上に黒茶色の荒さ斑點がある、殻口は白く、扁平となり、齒の間に柑黄色を彩る、

こもんたから 目八

長さ一寸内外、灰色鼠地に、白色の細點を密布し、殻口部は白く、薄黒の雲紋あり、齒は荒く、底邊にも其痕跡が有る、





*Cypraea erosa*, Linn.

*Cypraea lynx*, Linn (山内) シイパロイネツキ(川岩) ラカタシホメヒ

*Cypraea cruenta*, Gmel.

ヒガンモコ

(山内) ラカタキサラムソス

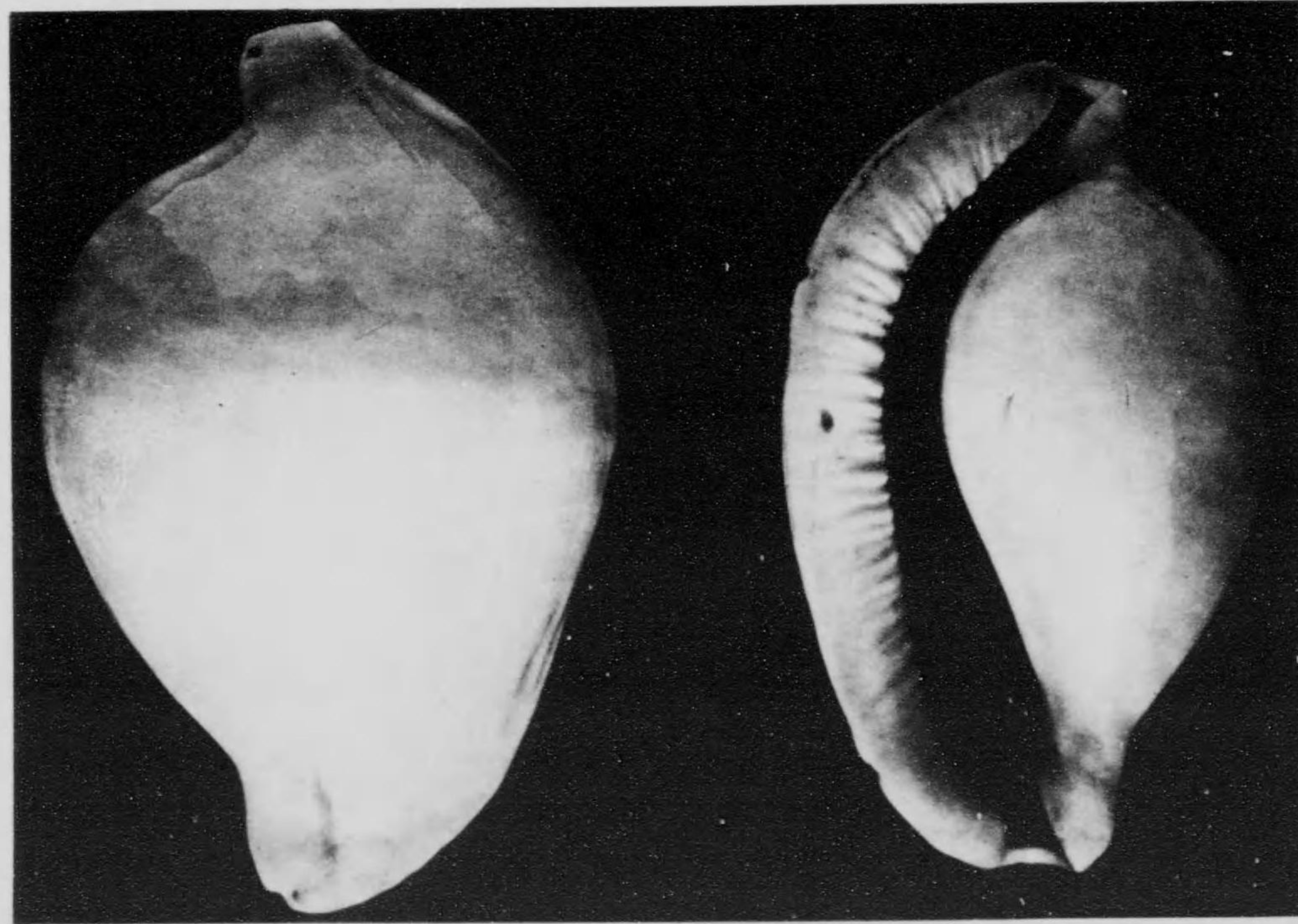


うみうさぎ 群品

長さ二寸五分内外、卵形純白色で、光澤あり、恰も、陶器の様である、兩溝は突出し、外唇のみ内方に巻き、寶貝の如く歯がない、口内濃紫紺色である、琉球に産す、

貝殻を彫刻して、飾用品を作る、





*Ovula ovum*, Linn.

(品群) ギサウミウ



しごろ 六介 ほうわうがひ

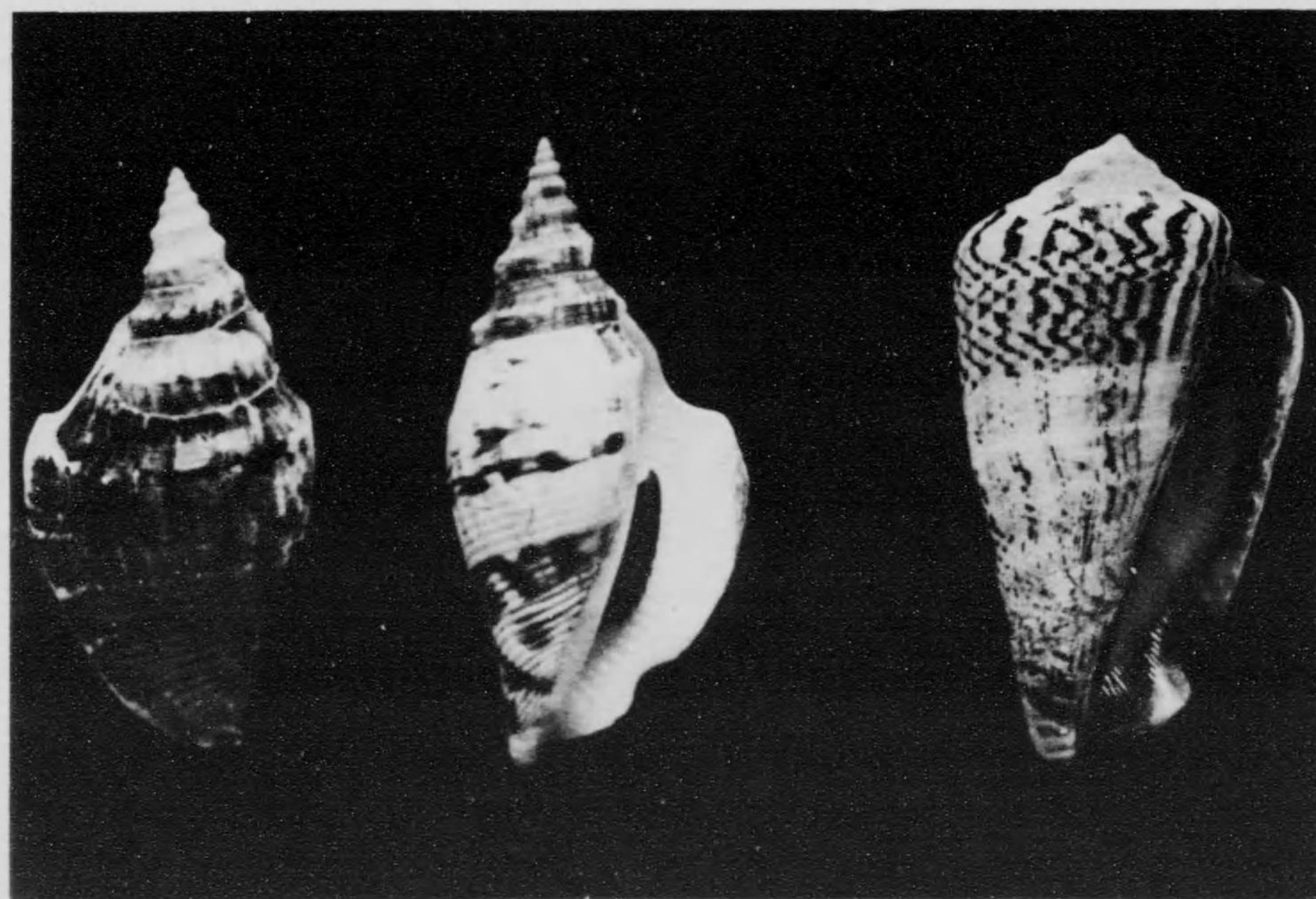
一寸五分内外、螺塔鋭く尖り、肩角著しく、細き皺あり、殻は袖の外面に数條の螺脈を刻し、茶褐色の雲紋を彩つて居る、口内は白く滑かで多数の筋がある、各地に廣く分布し普通に産す

袖貝類の動物は、他の貝類と餘程習性を異にし、匍匐する事無く、細き樹幹様の足の端にある、樹葉状の脚で地を蹴り、蹠這ふのである

まがきが い 目八

二寸内外、芋貝形で、殻質重厚螺塔低く肩角丸味を帯び、殻は平滑で白地に、茶褐色の斑紋數條を繞らし、褐色の外皮を被つて居る、殻口は狭く、内部は美しい柑赤色で、内層部に濃き茶色の層を彩つて居る、琉球に多く産す





*Strombus (Gallinula) japonicus* Rve. (介六) ロ ド シ  
*Strombus (Conomurex) luhuanus*, Linne'. (八目) ヒ ガ キ ガ マ



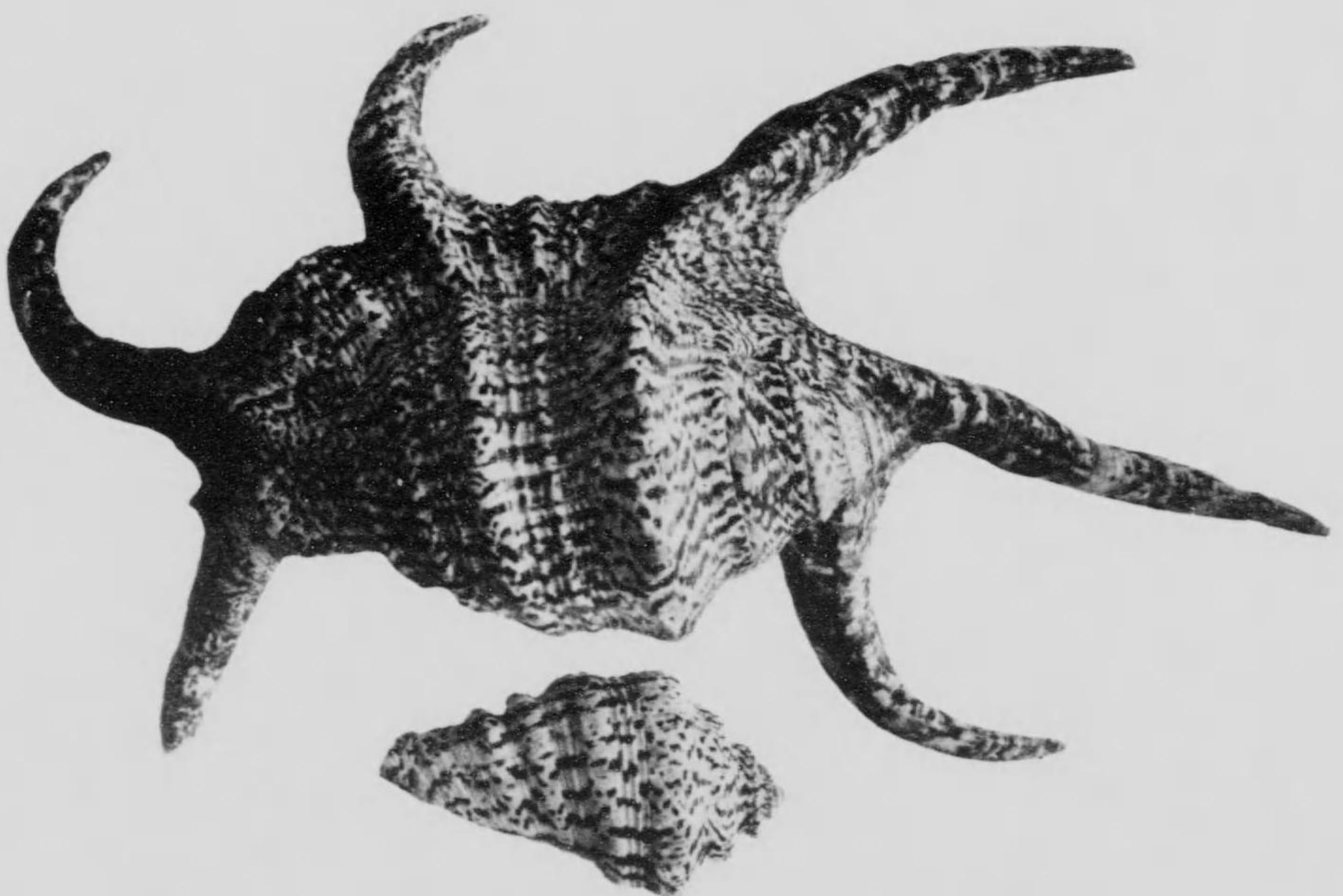
すいじがい六介

四寸五分内外、殻は卵形をなし、螺塔は階段的で肩角の結節は體層にて著しく瘤状をなし、下部に三條の隆起を、細脈を繞らし、白地に焦茶色の雲紋あり、茶色の外皮を被つて居る、殻口の周圍に六本の長さ刺状突起あり、水字形を成して居る、幼貝の時には、此突起は無い、故に生育したる貝とは全く別種の様で有る、口内は淡肉色に淡紅色を彩り、樹葉狀の唇を持つて居る、琉球に産す

貝殻は彫刻して裝飾品を作る

一種大形で突起七本あるものはらくだがひ  
又ひよけかひと云ひ、小形のものはいくもかひ  
と云ふ





*Pivovaca clavagora* Linne',  $\frac{1}{2}$  貝幼及(介六)ヒガシイヌ



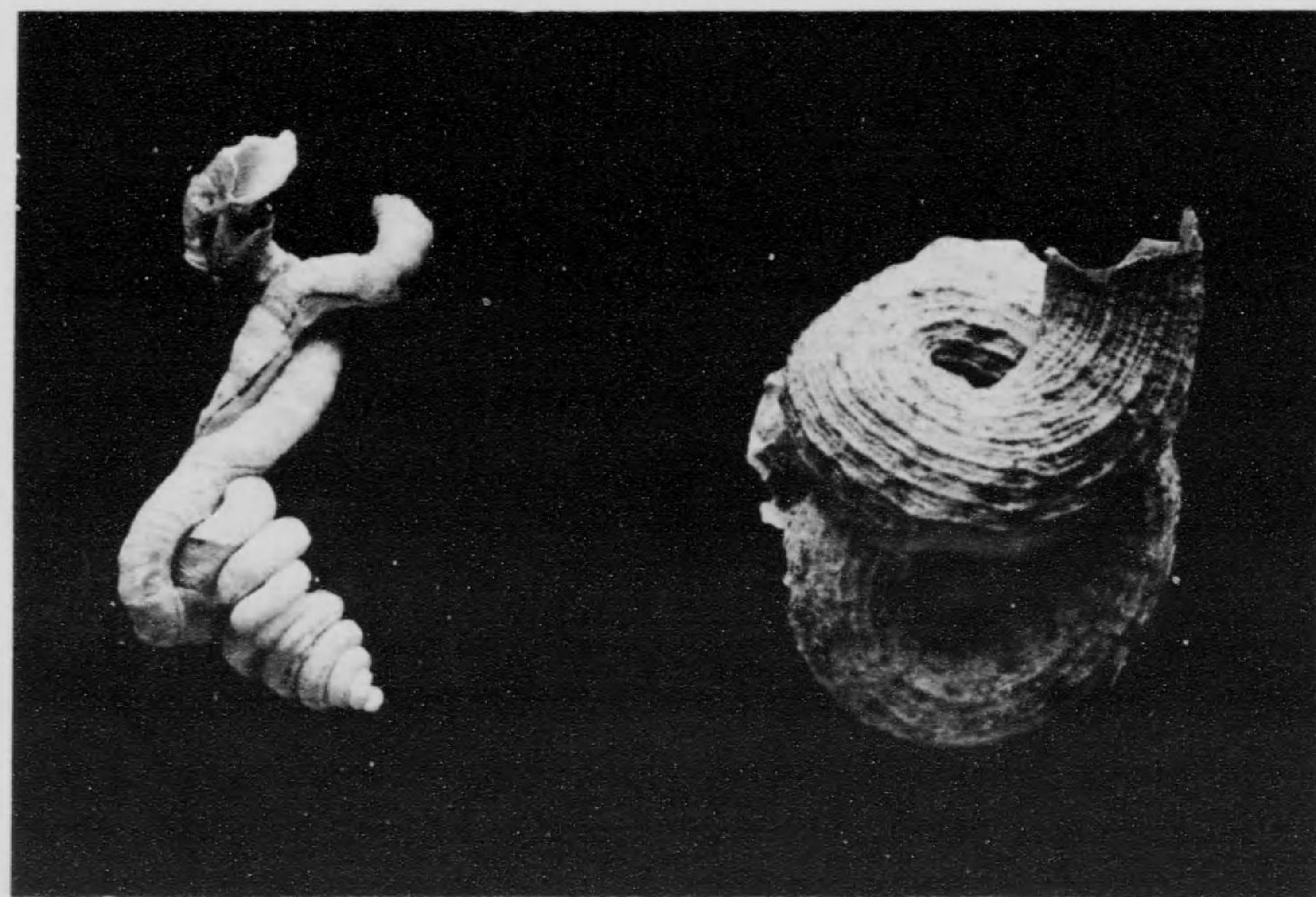
おほへびがひ 岩川

直徑二三分内外の管狀で、蛇の蟠た如き態である、殻の外面には結節ある縦脈あり、殻内に長き體を藏し、海底の岩石に固著して居る、各地に産す

みゝすがひ 目八

へびがひより細く、薄き貝殻で、不規則に旋回しミシン目の如き穴が、縦に一線連つて居る、各地に産す





*Siliquaria cumingii* Mörch.  
*Thylacodes imbricatus*, Dkr.

(八目) ヒガズ、ミ  
(川岩) ヒガビへホオ



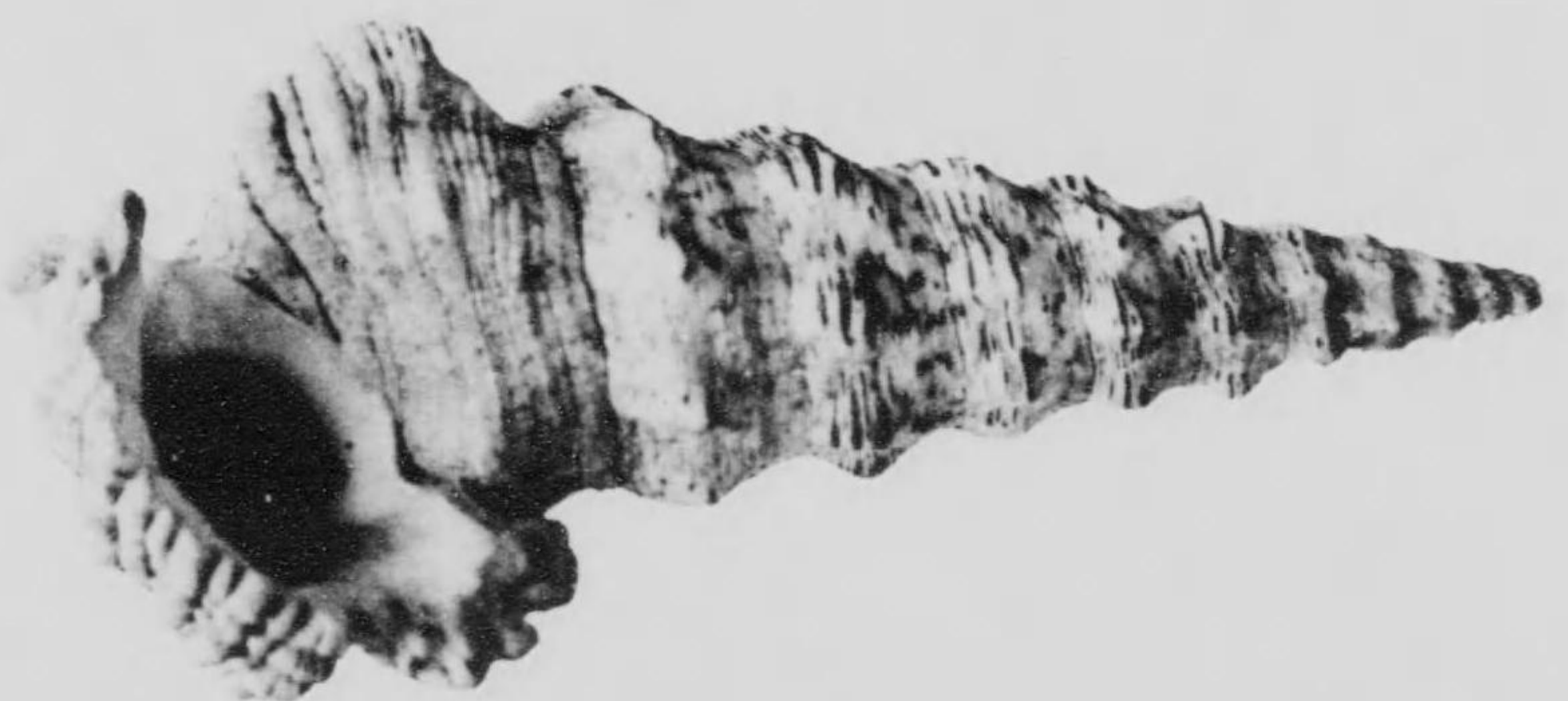
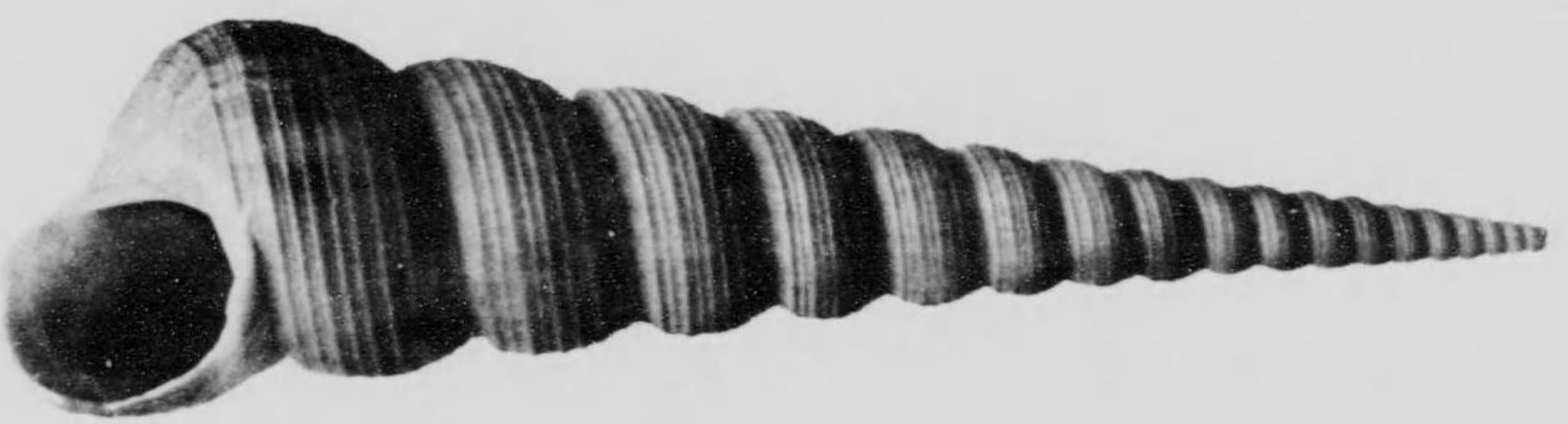
きりがひだまし 岩川

長さ四寸内外、螺塔細く尖り、栗茶色に赤味を帯び、螺層丸く膨らみ、旋き數條の螺脈を繞らし、殻口は圓形である、臺灣附近に産す

おにのつのがひ 目八

長さ三寸五分内外、殻質重厚、螺塔高く旋き結節、螺脈上には、栗茶色の縞の如き、斑紋を繞らし、體層では結節著しく突起し、螺脈端は疣の様になつて居る、殻口は振れ、奇體で有る、琉球に産す





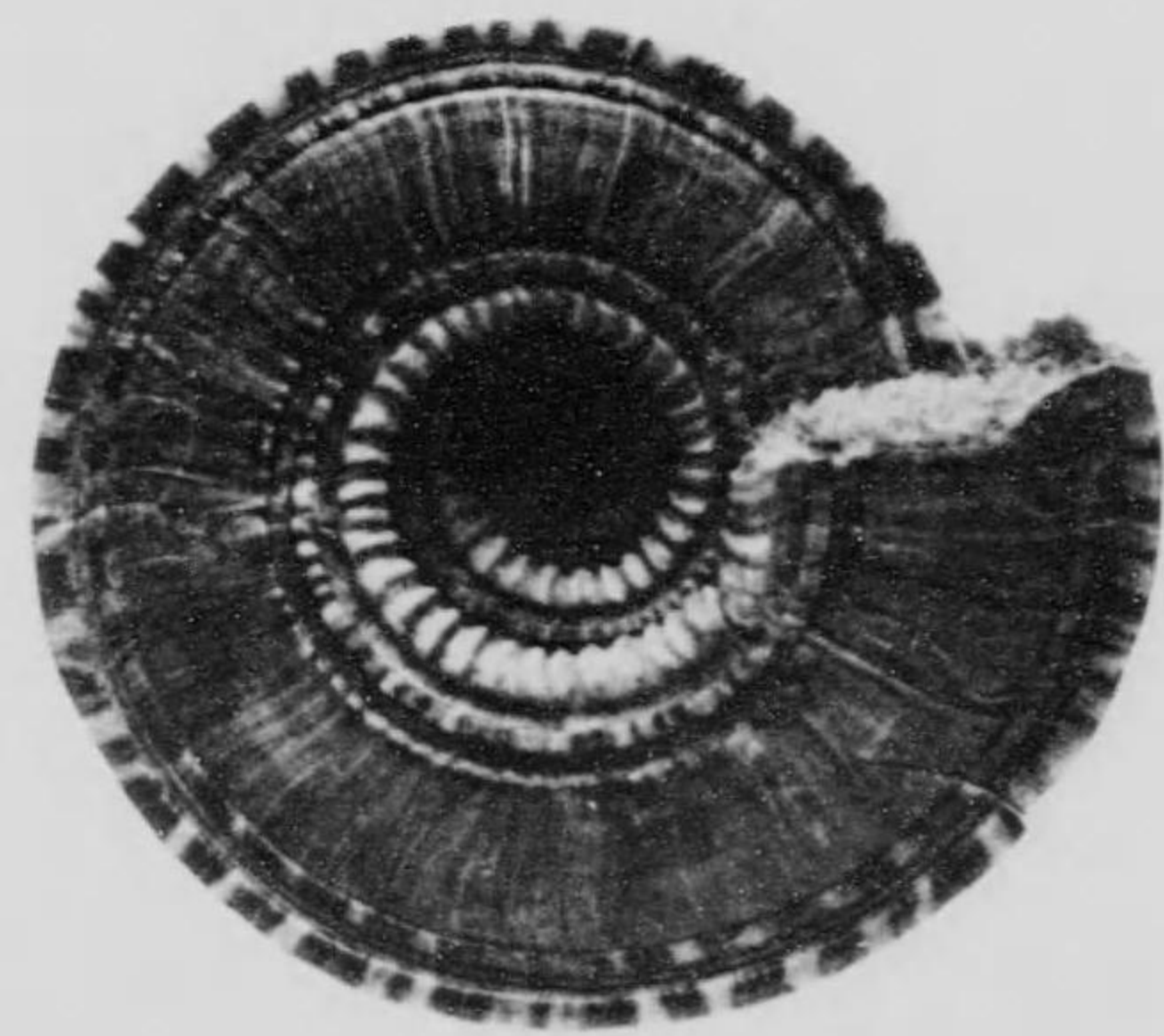
*Turritella bacillum*, Kiener (川岩) シマダイガリキ  
*Cerithium nodulosum*, Brug. (八目) ヒガノツノニオ



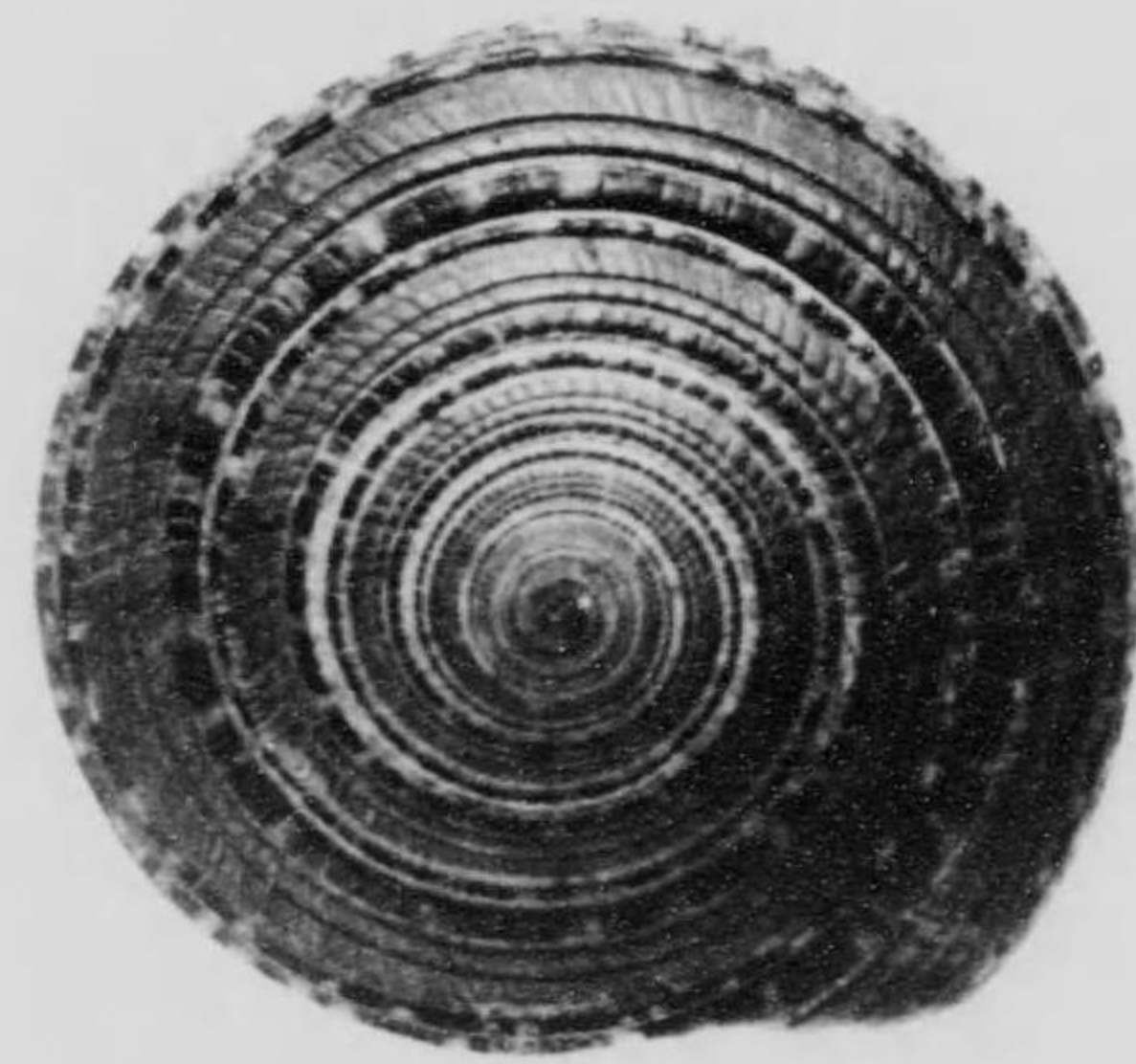
みさきくるま 内山

直径一寸五分内外、低き圓錐形で、肉鼠色を帯び、縫合は細き溝をなし、尙縫合と並行したる溝を刻し、之れに沿うて焦茶色の斑點を繞らし、更に緻密なる縦脈を刻し、兜の鞆の様な外觀で美しい周縁は銳き角をなし、底面は扁平で、表面と同じき斑點あり、臍口は大きく、螺層の旋回せるを望見する事が出来る、殻口は扁圓で角質の唇を持つ、東海道沿岸以西に産す





*Solarium maximum*, Phil



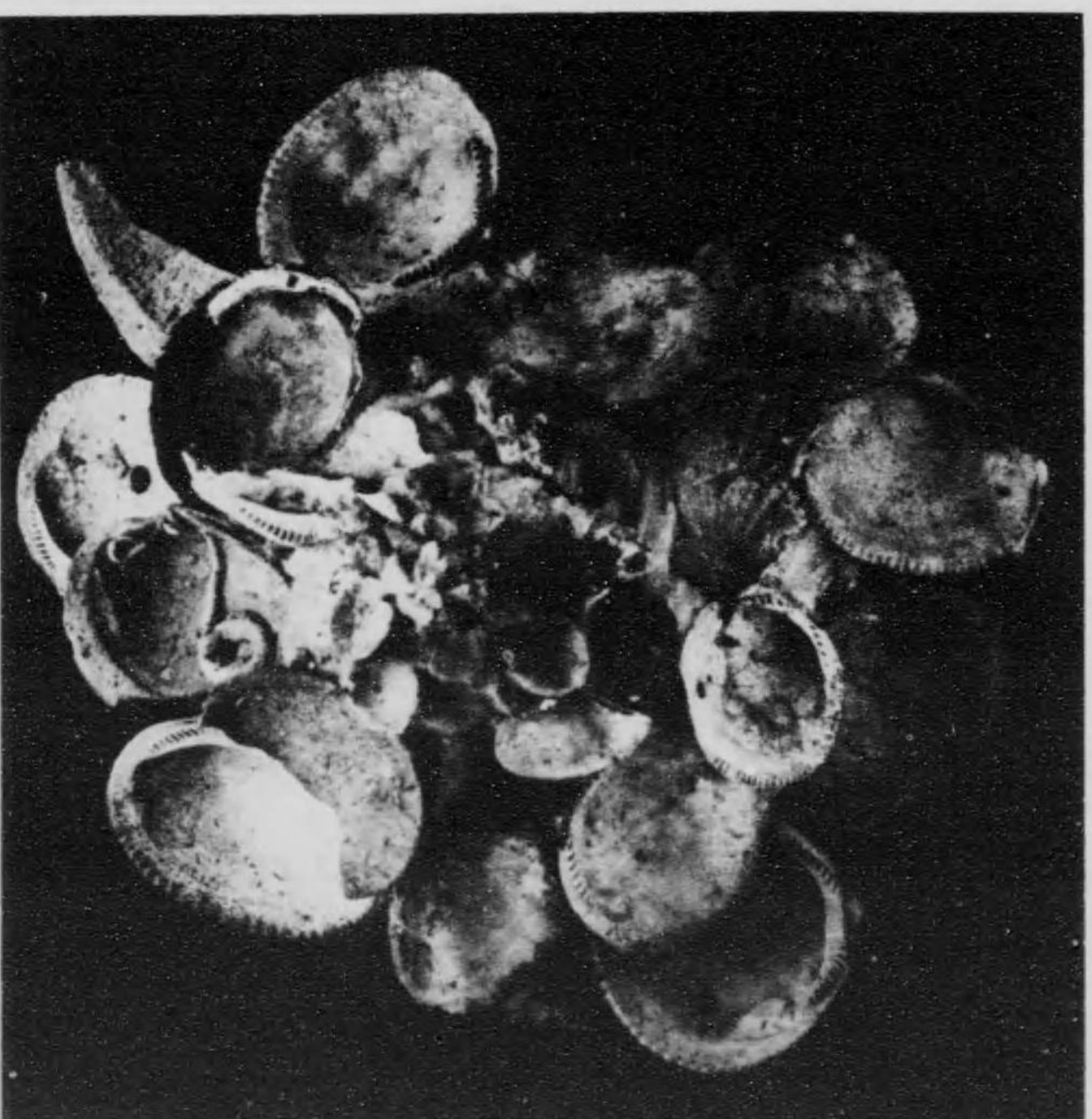
(山内) マルクキサミ



くまさかがひ 六介

低き圓錐形で、薄き貝殻の表面には、多くの貝殻、石等を附着して居る、此貝は我體を保護する爲に、死貝を集め附着するので有つて、如何なる方法で、附着せしむるかは不明であるが、幼貝の時には、小さき貝殻を集め、生長するに従ふて、大なる貝を附着して居るのも、不思議である、底面は薄茶色で、緻密な彫刻あり、膠質の層を持つて居る、各地に産す。





*Xenophora pallidula*, Rve

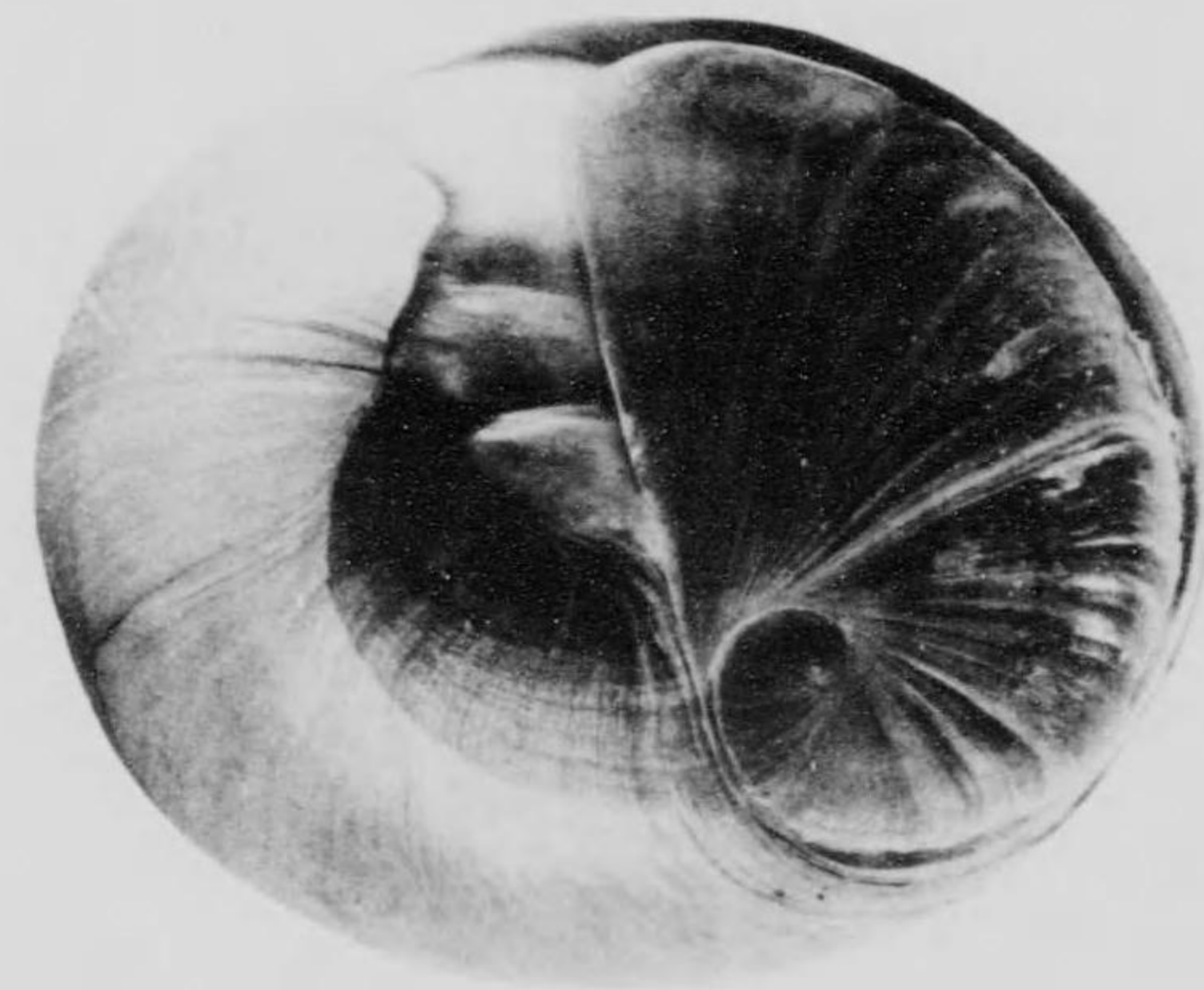
(介六) ヒガカサマク



つめたがひ 渚錦

球形で螺頂は一方に偏し、鼠色で底面は白い、脣口大きく、殻口は半月形で、膠質の帯を持つ、此貝の動物は、非常に大きく、一部は殻を包み、體は殻の約三倍大に延長して匍匐す、大層貪食で、雙貝類の貝殻に穿孔して、其肉を食ふ、其方法は吻より一種の液を分泌し、殻を腐融せしめ、貝の死して殻を開くを待つて、肉を食するのである、此動物は斯く大きな爲め、體を貝殻中に萎縮し終るのが甚緩慢である、故にやどかりの爲に、醜はれて肉を食はれて、仕舞ふ事がある、此貝にやどかりの棲で居るのが多いのは其證據である、廣く各地に産す





*Polinices didyma* Bolten



(錦渚)ヒガタメツ



あさがほがひ 六介

直径七八分内外、螺塔低く、蝸牛殻状の薄き貝である。表面白色に生長線を刻し、周縁下に濃紫色を彩り、軸部は白色である。此貝は半透明の、ゴムの質の浮袋を分泌し、海面上に浮遊しつゝ、食物を採り、生活をなすので、外洋を受けたる方面に産す。

一種 螺塔高く球状で、莖色のはるりがひさ云ふ

こしたかあまがひ 岩川

長さ七八分内外、白茶地に荒き螺助を繞らし、濃緑色の斑紋あり、殻口大きく、半月形で内外兩唇に齒あり、石灰質の厚き層を持つて居る。琉球に産す。





*Nerita (Pila) undata* Linn.

*Ianthina ianthina*, Linn.

(川岩) ヒガマアカタシコ

(介六) ヒガホガサア



おほいごかけ

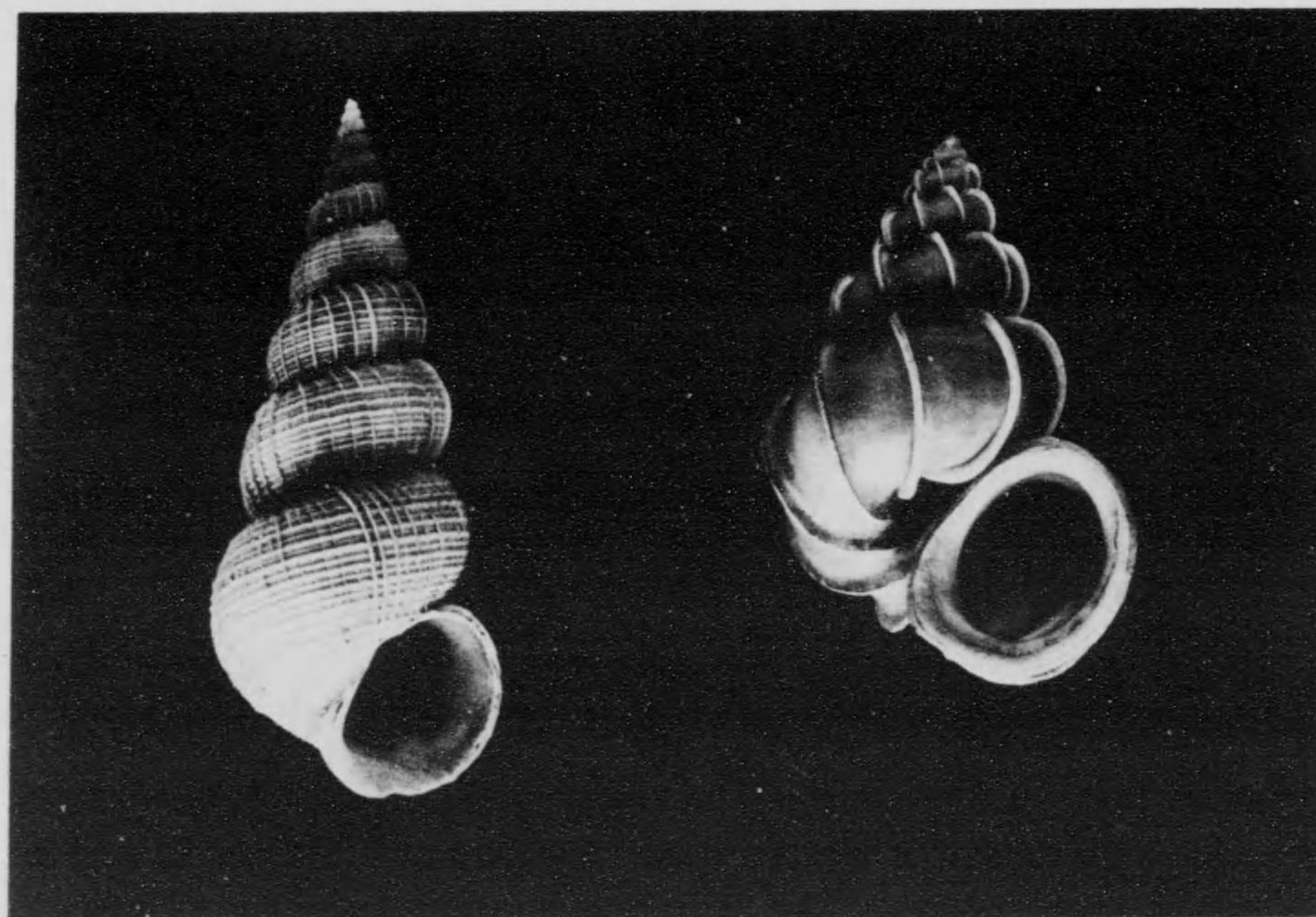
長さ二寸内外、螺塔高く螺層は膨れ、白色平滑の艶はしき貝である、縦脈は薄板状で仕切の如く平行して、螺層を横ぎつて居る中々奇観である、殻口は丸く膠質の膠を持つて居る、

此貝日本南部、支那海、濠洲の一部に稀に産す、

ながいごかけ 平瀬

長さ三寸内外、螺塔前種より高く尖り、白地で縦助と螺助と密に交り、丁度糸を膝つた様である、本貝は今を去る事十数年前、アダムス博士が、紀州箕島沖(?)にて、始めて発見したるもので、其後採集せられたるを、聞かなんだが、去四十年の春、我淡路福良の東南に、同種を発見し、即ち世界、中同地より外に産地無き譯で、今日に至る迄、十数箇を採集せしに過ぎず、甚だ稀珍品である、





*Scala (Amæa) magnifica* Sowb  
*Scala pretiosa* Lam.

(潮平) ケカトイガナ  
ケカトイホオ



りうてんぼう 六介

長さ二寸内外、螺塔高く、螺層は平滑で膨らみ、微かに生長線を現はし、縫合と並行したる、色々の斑紋数條あり、尙全體に電光様の斑紋を彩り、甚美麗である、殻口は丸く、白色石灰質の平滑なる中に、濃綠色を彩る、層を持つて居る、日本中部以西に産す、





*Turbo petholatus*, Linn.



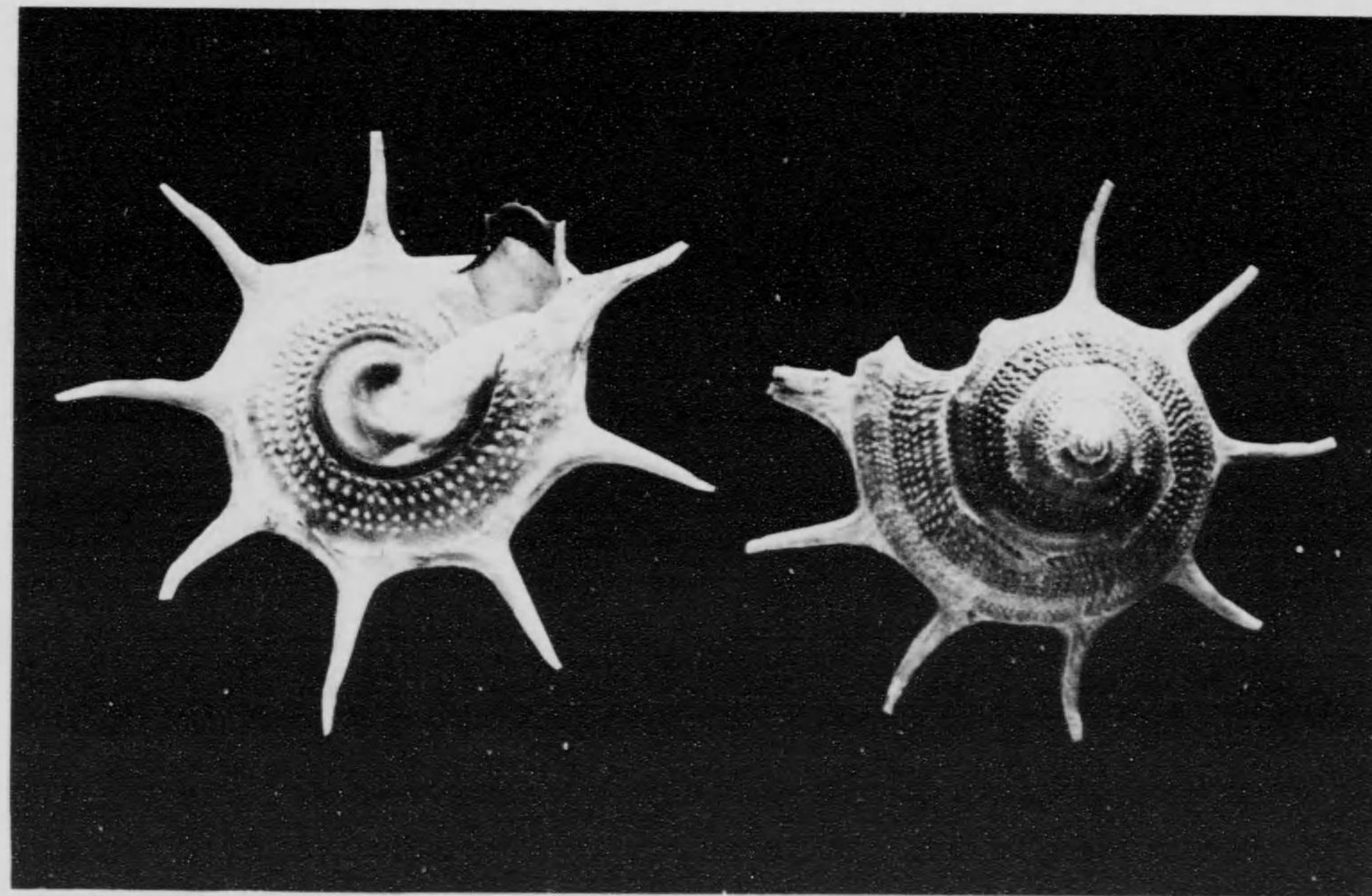
(介六) シ テ ウ リ



りんぼうがひ 六介

直径一寸五分内外、螺塔低く、赤茶色に數條の點狀隆起を繞らし、周縁には刺の如き、七八本の突起ありて、輪寶の様である。底面は白色で、微かに點狀隆起を現はし、殻口は橢圓形で、白色石灰質の、厚き層を、持つて居る、内部は光澤ある眞珠層である。紀伊を中心とし、東海道沿岸にも産す。





*Astralium (Guildfordia) triumphans*, Phil.

(介六) ヒガウボンリ



さらさばてい 目八

通稱 高瀬貝

長さ三寸五分内外、圓錐形で、殻質重厚、石灰質で、螺頂より四五層は、疣狀隆起を繞らし、縫合深く、栗茶色の電光様斑紋あり、底面は扁平で、白色に海老茶色の斑紋がある、殻口は隋圓形で、口内は燦爛たる眞珠層で美麗である、膠質圓形の渦巻になつた、唇を持つて居る、琉球以南に産す、

殻は貝釘に必須の原料で、需要の大部分を占めて居る、此他各種の細工に用ひる、





*Trochus niloticus*, Linn.  $\frac{2}{3}$

(八目) イテバサラサ



## 長者貝

和名なきなびす云ふ、古來藏貝家の珍重したもので有る、故に長者貝と呼ぶ様になつた、現今に於ても稀尠で貝類中の王である、

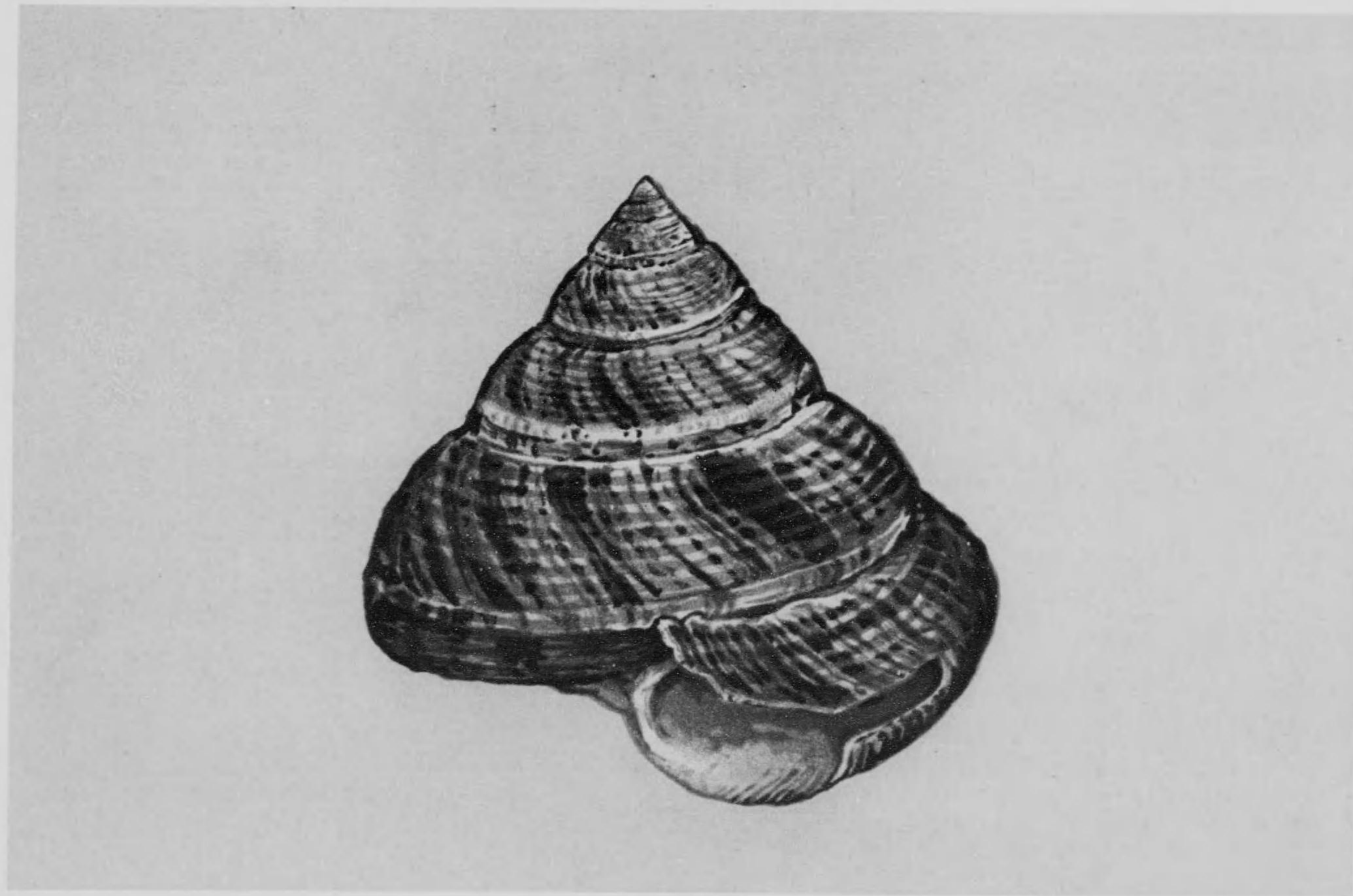
此種の貝は前世紀には歐、米、濠洲に渉り、多種屬が棲息して居たもので、化石となりて發見せられたるもの、千百數十種有ると云へば、如何に多く繁殖して居つたか分る、併しながら該種は追々滅亡して、現今は殆んど絶滅に近く、世界を通じて漸く六種を産するのみで有る、前記化石の數と對照すれば、思半ばに過ぐるであらふ、

現存種は西印度、モラツカスに三種と我日本に三種(相模沖、土佐柏島)二變種を産す、

▲翁戎の特長 殻は圓錐形をなし、高さ二寸七分内外、直徑も同じ位有る、螺層は膨らみ、殻口に深き切れ込みがある、此切れ込みと同じ幅の筋が、全螺層を繞つて居る、是れを罅裂帶と云ふ、此帶と並行して上部に七八條、下部に二條の荒き螺脈があつて、帶黄紅色の斑紋が生長線に沿ふて、斜に此螺脈を横ぎつて渦隆狀を成して居る、殻底の放射斑紋は、一層美麗で有る、又殻の内面は燦爛たる眞珠層が異彩を放つて居る、

動物の頭部は、太き棒狀をなし先端に口有り、二本の長さ觸角を有す、足部は餘り發達せず、外套膜の一部は殻底を掩ふて居る、全體帶黄白色の地に茶褐色の斑紋を密布し、頭部は著しく海老茶色で有る、退化したる角質茶褐色の小さき層を有す、





*Pleurctomaria (Petroclaus) beyrichii*, Hilg.

(八目) スビエナキラ



150  
5000

みゝがひ目八

長さ三寸内外、螺塔は一方に偏し、體層は延びて耳の形をなし、帯綠色で美しい、三十餘の呼吸孔があつて、内七八は開孔して居る、内面は平滑なる眞珠層で、琉球にのみ産す。

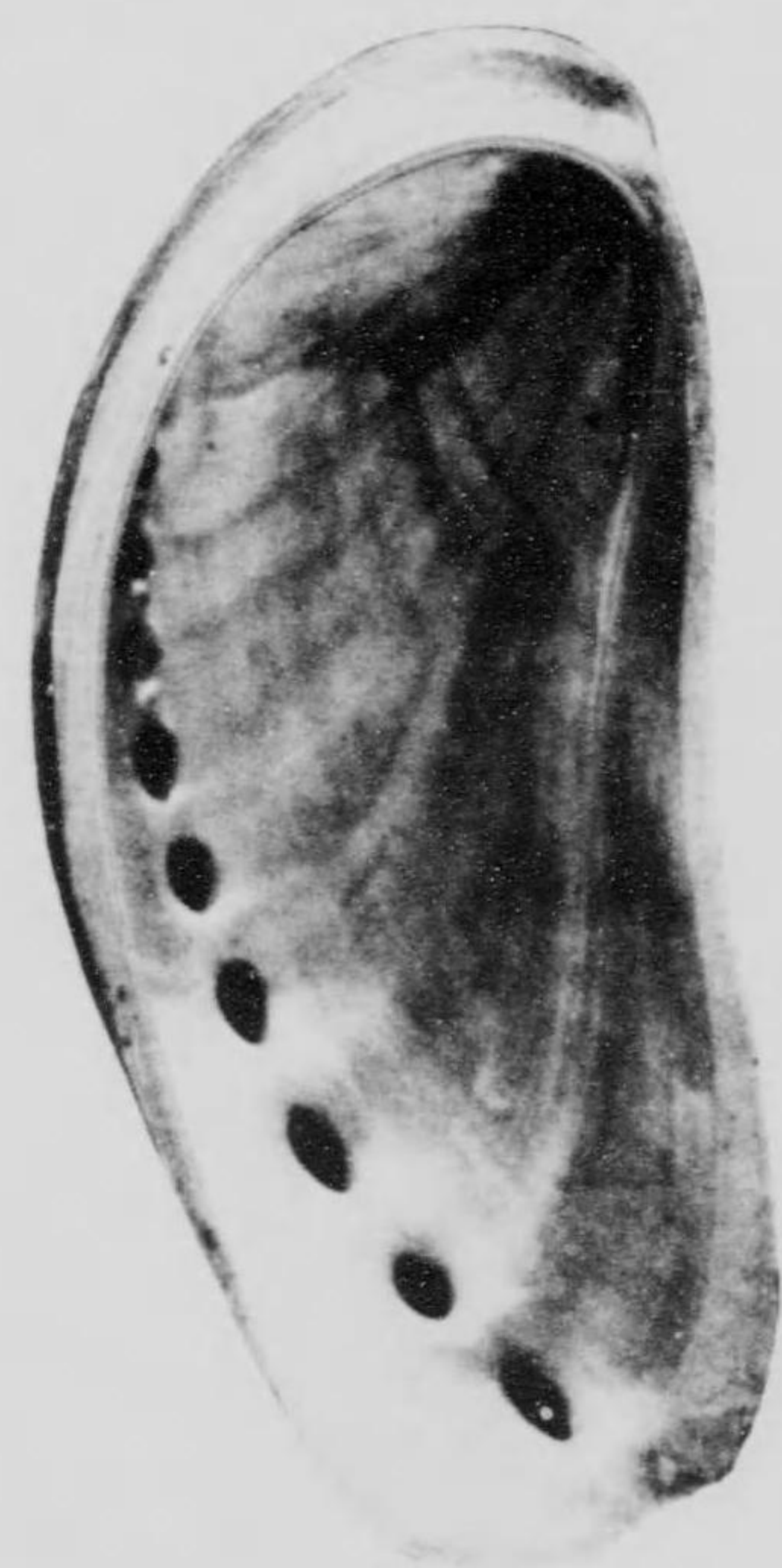
まあなごう方言

長さ二寸内外、圓形で荒き隆起と、螺脈あり、呼吸孔は四五を開き、外縁は廣く渦巻をなし、内部眞珠層にも數が多い、琉球に産す。

鶺鴒小舎の馳威しの鮑貝

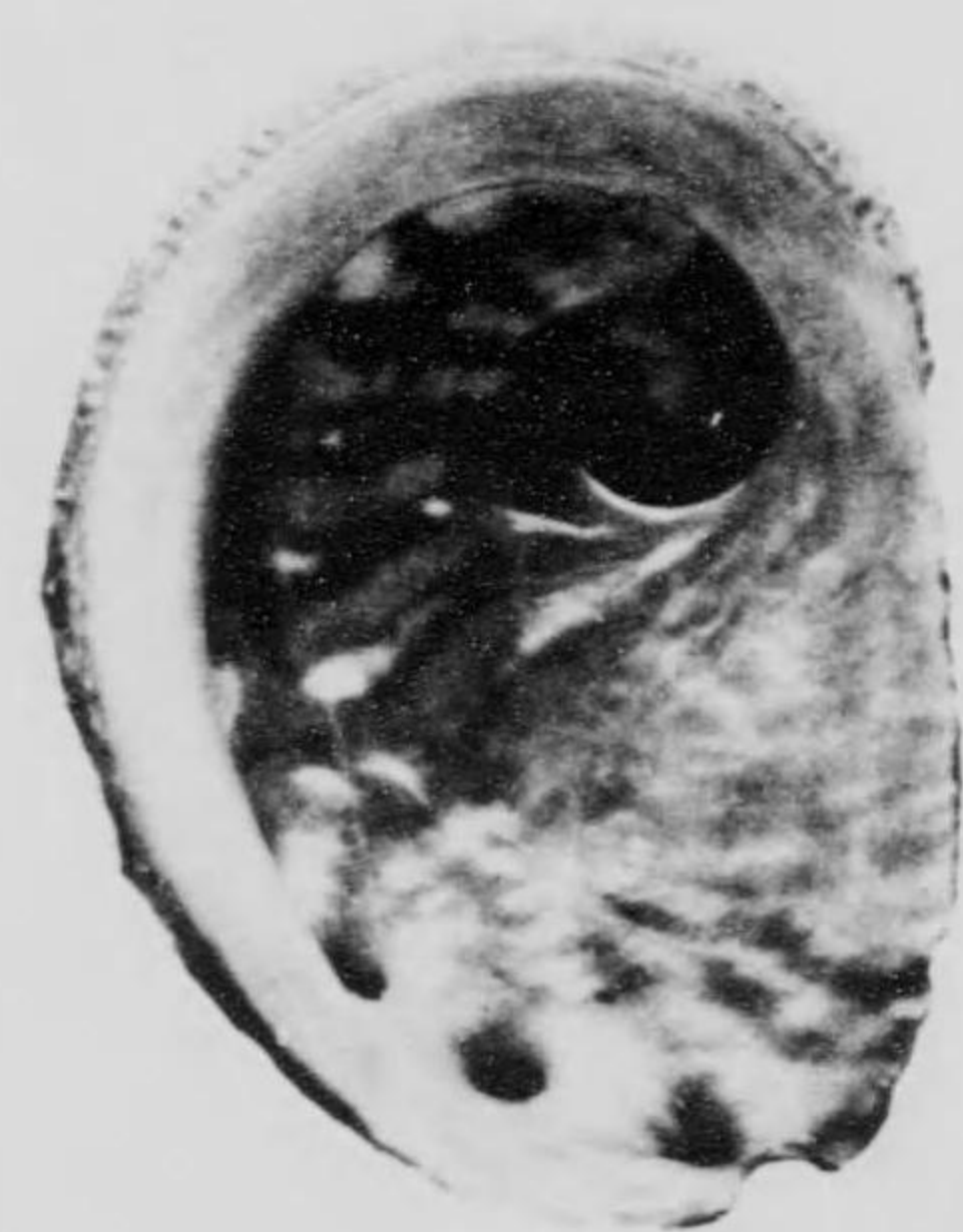
やみにきらめく海きこの家 葛園





*Haliotis (Teinotis) asinina* Linn.

*Haliotis (Padollus) ovina*, Gmel.



(八目) ヒガミミ

ウゴナアマ



うのあし目八

一寸内外、殻は扁平で螺状を爲さず、數箇の放射助が有つて、鳥の水掻を見る様で有る、動物は觸角、吻等を備へ、岩石に固著して居る、匍匐する事は少い、

此種の齒舌は、甚だ長く捻回して居り、齒列は荒く、獸類の爪の様である、各地に普通に産す

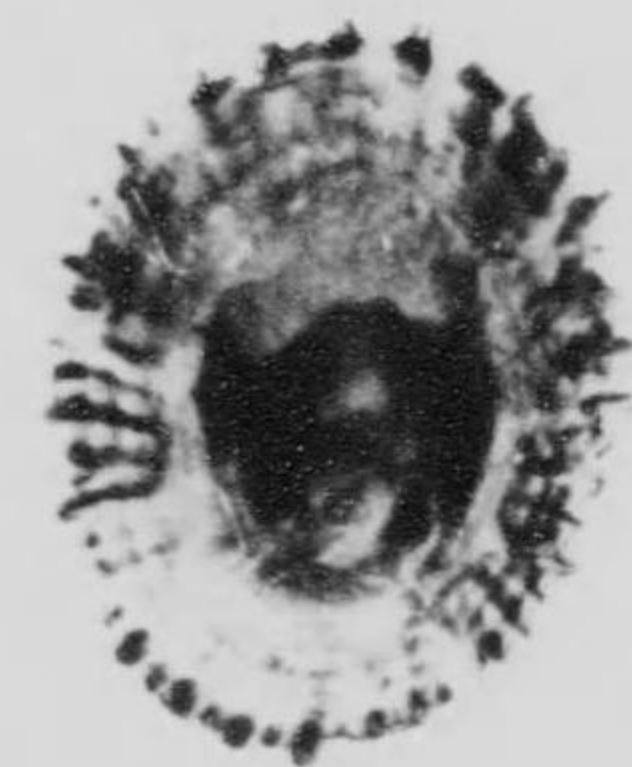
あみかさがひ目八

一寸五分内外、陣笠状で螺頂は一方に偏し、多數の放射助あり、うのあしより、殻深く岩石に附著して居る、各地に産す、





*Helcioniscus stearnsii*, Pils.



*Acmea saccharina*, Linn.



(八目) ヒガサガミア



(八目) シアノウ